I-O DATA

USBポート対応MPEGエンコーダーBOX

USB-MPG

取扱説明書

株式会社 アイ・オー・データ機器

41164-02

【ご注意】

1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
したがって、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2) 本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
3) 本製品及び本書の内容について、不審な点やお気づきの点がございましたら、弊社サポートセンターまでご連絡ください。
4) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。
5) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により戦略物資等輸出規制製品に該当する場合があります。国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
6) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など人命に関る設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
7) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
8) お客様は、本製品または、その使用権を第三者に対する再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません。
9) テレビやビデオの映像は著作権法により保護されています。これらの映像は個人で楽しむ以外に利用しないでください。
10) 弊社は、お客様が【ご注意】の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本製品のご使用を終了させることができるものとします。

- I-O DATAは、株式会社アイ・オー・データ機器の登録商標です。
- Microsoft,Windowsは、米国 Microsoft Corporationの登録商標です。
- Dazzleは、Dazzle Multimedia,Incの商標です。
- Ulead System,Ulead VideoStudio,PhotoImpactは、Ulead System社の商標です。
- その他、一般に会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

USB-MPG 取扱説明書
2001.May.21 41164-02
発 行　株式会社アイ・オー・データ機器
〒920-8512 石川県金沢市桜田町3丁目10番地

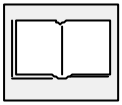
© 1999-2001 I-O DATA DEVICE,INC. All rights reserved.
本製品および本書は著作権法により保護されておりますので
無断で複写、複製、転載、改変することは禁じられています。

ここにＶｅｒシールをお貼りください

Ｖｅｒシール

■はじめに

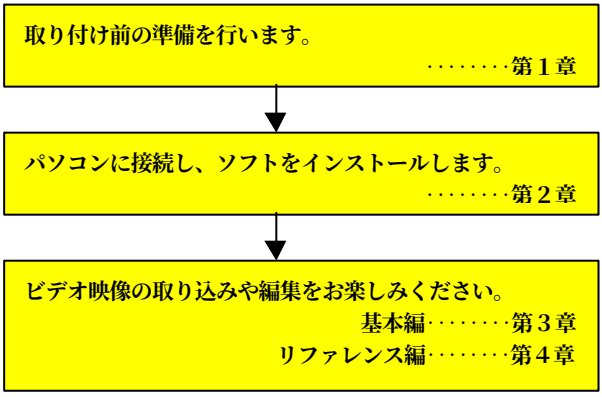
このたびは、USBポート対応MPEGエンコーダBOX『USB-MPG』をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用の前に本書をよくお読みいただき、正しいお取り扱いをお願いします。



本書をご覧になるにあたって

■本書の見方

以下のフローに沿って、必要な個所をお読みください。



■呼び方

呼び方	意　味
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition Operating System
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Operating System Microsoft® Windows® 98 Operating System Second Edition
Windows Me/98	Windows MeおよびWindows 98の総称

■ハードウェア構成

本書では以下のような構成を想定して説明しています。構成の相違点を確認しながら読み進めてください。

《ドライブ構成》

A：フロッピーディスクドライブ3.5インチ（1.44MB/720KB）

C：ハードディスクドライブ

ご使用になるOSがインストール済みで起動可能であること。

D：CD-ROMドライブ



はじめに..... i
目次.....iii

第１章 ご使用になる前に..... 1

特徴..... 2
箱を開けたら..... 4
各部の名称..... 6
動作環境..... 7
取り扱いおよび使用上の注意..... 8

第２章 接続とインストール..... 9

接続する..... 10
ソフトのインストール..... 13
インストール終了後の確認..... 19

第３章 MPEG Creatorの基本をマスターする..... ２５

基本の操作..... 26
映像をパソコンに取り込む..... 28
簡単なビデオ編集をする..... 35
便利な使い方いろいろ..... 41
映像出力..... 46

第４章 MPEG Creator リファレンス ４７

基本パネル 48
コントロールパネル 52
アルバムパネル 57
編集パネル（ビデオ） 64
編集パネル（スナップショット） 69
オプションパネル 73

付録 **８５**

困ったときには 86
ハードウェア仕様 90
用語解説 91

サポートセンターへのお問い合わせ 93
保証について 94
サポートソフトのバージョンアップ 95
修理について 96

1 ご使用になる前に

この章では、USB-MPGをご使用になる上で必要となる事項を説明しますので、最初に必ずお読みください。

【特徴】（2ページ）

本製品を使って、どんなことができるのかを簡単に説明してあります。

【箱をあけたら】（4ページ）

箱の中に入っているものを確認してください。また、ユーザー登録の方法を説明してありますので、必ず、登録をお願いします。

【各部の名称】（6ページ）

本製品の各部分の名称と簡単な働きを説明しています。

【動作環境】（7ページ）

対応機種や対応OSについて説明します。お取り付けになる前に、ご使用のパソコンが動作条件を満たしているか、確認してください。

【取り扱いおよび使用上の注意】（8ページ）

取り付け時や使用時に、してはいけないことなどを説明しています。必ずお読みになり、安全で快適にご使用ください。

特　徴

● ビデオカメラ、TVなどの映像を簡単にMPEGファイルに

ビデオカメラ、CCDカメラ、TV、ビデオデッキ、DVDデッキなどの映像機器と接続して、高品質の映像を簡単な操作で、MPEG-1形式のファイル（以下、MPEGファイルと呼ぶ）にすることができます。もちろん、音声もCDなみの品質で同時保存。それらのMPEGファイルをさらに編集したり、インターネットを通じて送ったり、スクリーンセーバーにして楽しむこともできます。

参考　**MPEGファイルとは？**
Motion Pictures Expert Group(Standard 1)の略で、動画の圧縮伸長技術です。少ない容量で動画を記録できるのが特徴。Windows搭載のパソコンでは特別なハードがなくても再生できます。また、CDに記録すればビデオCDやDVDプレーヤーでも再生できます。インターネットでの利用にも最適な形式です。
※再生プレーヤーがCD-Rメディアに対応している必要があります。

● USBポート使用で接続が簡単

接続時には、パソコン本体ケースを開ける必要がないので工具も不要です。

● スマートなデザイン。縦置型で場所も取りません。

● あらゆるマルチメディアシーンで

接続したビデオ機器からの映像を静止画・音声ファイルとして取り込むこともできます。静止画では、bmp形式、jpg形式を始めとする多彩なファイル形式をサポートし、最大1600×1200の超高解像度でのキャプチャが可能です。
また、Video for Windows対応のビデオ会議システムの入力デバイスとしても利用できます。

● NTSC形式、PAL-M形式の映像機器に対応

アメリカ、カナダ、日本で使われているNTSC形式のほか、多くのヨーロッパ諸国、オーストラリアなどで使われているPAL-M形式の映像機器も接続できます。

● 映像出力端子（Sビデオ対応）を装備

映像出力端子をTVモニターに接続すれば、作成したMPEGファイルを大画面で再生することができます。また、VTRに接続すれば、作成したMPEGファイルをビデオテープで録画でき、楽しみ方が広がります。

● 高度なGUIをもつ専用ソフト「MPEG Creator」添付

映像の取り込みから編集まで、すべてはこのソフトウェアで行います。直感的なGUIの簡単操作で、今日からビデオディレクターになりましょう。

● ノンリニアビデオ編集ソフト「Ulead VideoStudio 5 SE Basic」添付

※ 「Ulead VideoStudio 5 SE Basic」は編集専用のソフトです。USB-MPGを使用してのキャプチャ、TV出力には専用ソフト「MPEG Creator」をご使用ください。

● Web最強レタッチソフト「Ulead PhotoImpact 6 SE」添付

静止画のレタッチ、エディティングに最適な、ソフトです。

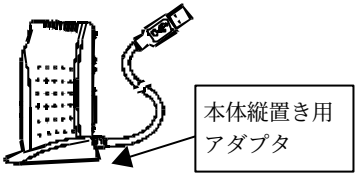
注意 **「Ulead VideoStudio 5 SE Basic」と「Ulead PhotoImpact 6 SE」はサービス品につき、弊社ではサポートいたしかねます。質問などは、添付されている「Ulead Systems　お客様保管用カード」をご覧になり、ユーリードシステムズ社にお問い合わせください。**

箱を開けたら

■同梱品の確認

万が一、不足品がございましたら、弊社サポートセンターまでご連絡ください。

お願い：箱・梱包材は大切に保管し、修理などで輸送の際にご使用ください。

内容物	内容物の詳細	個数
USB-MPG本体	 ※上図は本体縦置き用アダプタを含みます。	1個
ケーブルセット	ビデオケーブル（2本）  RCA-RCAオーディオケーブル（1本）  RCA-Miniオーディオケーブル（1本）  Sビデオケーブル（1本） 	1式
ACアダプタ		1個
本体縦置き用アダプタ	USB-MPG本体の図を参照してください。	1個
サポートソフト	「MPEG Creator」CD-ROM	1枚
その他	取扱説明書（本書）	1冊
	「Ulead VideoStudio 5 SE Basic」 （サービス品）	1式
	「Ulead PhotoImpact 6 SE」 （サービス品）	1式

その他	ハードウェア保証書	1枚
	ユーザー登録カード（本書巻末）	1枚
	Verシール	1枚
	ハードウェアシリアルNo.シール	1枚
	安全で快適にお使いいただくために	1冊

■ユーザー登録方法

1　添付のVerシールを、ユーザー登録カード、サポートソフトウェアディスク、本書の巻末の「Verシール」と書かれている部分に貼ります。

2　添付のハードウェアシリアルNo.シールを、ユーザー登録カード、ハードウェア保証書に貼ります。

3

●オンライン登録する場合（http://www.iodata.co.jp/regist）

インターネットに接続できる環境をお持ちの場合はこちらでユーザー登録を行ってください。

I-O DATA ホームページに「オンライン・ユーザー登録」ボタンが用意されています。このボタンをクリックするとオンライン登録の案内が表示されますので、画面の表示にしたがって必要事項を記入して、ユーザー登録を行ってください。

オンライン・ユーザー登録後、お手元のユーザー登録カードには、ユーザー登録番号を記入して大切に保管してください。

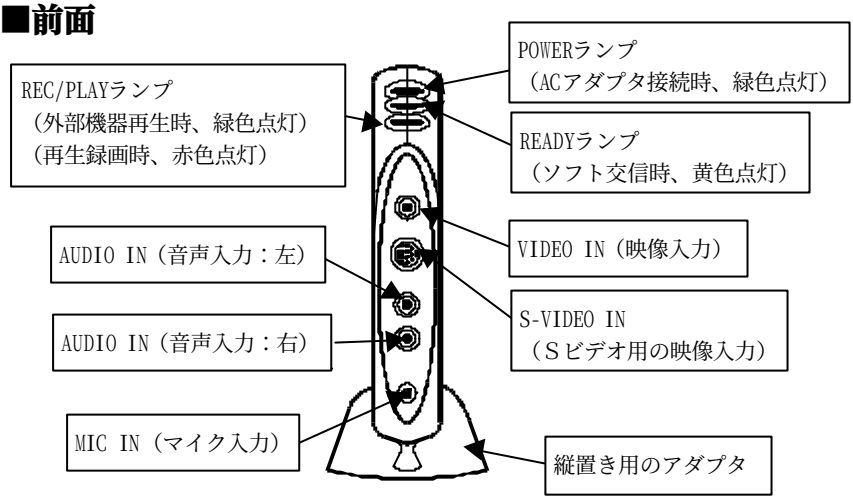
●ハガキで登録する場合

ユーザー登録カードに、必要な事項をご記入のうえ、弊社まで必ずご返送ください。

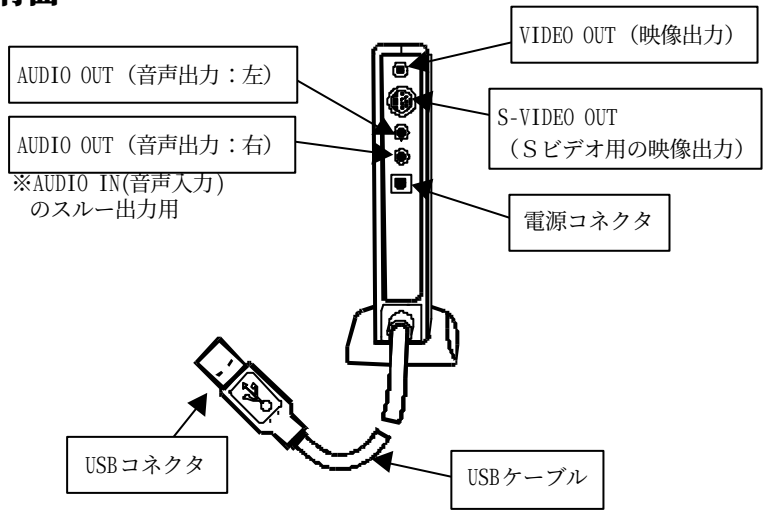
注意　ハガキによる登録の場合、必要事項のご記入もれや必要なシールの貼り忘れがあった場合は、ユーザー登録できません。必ずご確認ください。

各部の名称

■前面


REC/PLAYランプ
（外部機器再生時、緑色点灯）
（再生録画時、赤色点灯）
POWERランプ
（ACアダプタ接続時、緑色点灯）
READYランプ
（ソフト交信時、黄色点灯）
AUDIO IN（音声入力：左）
VIDEO IN（映像入力）
AUDIO IN（音声入力：右）
S-VIDEO IN
（Ｓビデオ用の映像入力）
MIC IN（マイク入力）
縦置き用のアダプタ

■背面


AUDIO OUT（音声出力：左）
AUDIO OUT（音声出力：右）
※AUDIO IN(音声入力)
のスルー出力用
VIDEO OUT（映像出力）
S-VIDEO OUT
（Ｓビデオ用の映像出力）
電源コネクタ
USBコネクタ
USBケーブル

動作環境

対応機種	NEC PC98-NXシリーズ DOS/Vマシン （弊社では、OADG加盟メーカーのDOS/Vマシンで動作確認を行っています。）
CPU	Pentium 133MHz以上
メモリ	16Mバイト以上（32Mバイト以上推奨）
OS	Windows Me Windows 98（Second Edition含む）
USBポート	USBハブを使用する場合はセルフパワード・ハブ（ACアダプタを使用するタイプ）を使用してください。
VGAカード	解像度800×600×16ビットハイカラー以上で DirectDraw対応
CD-ROMドライブ	ソフトウェアのインストール時に必要
サウンドカード	音声の再生用として、Audio OUTコネクタ付のものが必要

※ その他、映像の取り込み元である映像機器（ビデオカメラやTV、CCDカメラ、ビデオデッキなど）をご用意ください。

取扱いおよび使用上の注意

- 本製品は非常に精密にできておりますので、以下の注意事項を守ってお使いください。

  ・CGやアニメなどの映像を取り込む場合、映像の輝度が特に激しく変化する場面（例えば黒い背景に白い文字がすばやく点滅する場面など）では、取り込んだ映像にブロック状の乱れが生じる場合があります。
  ・「MPEG Creator」起動中はUSBコネクタを抜き差ししないでください。

- 本製品の内部の点検・調整・修理は弊社修理係にご依頼ください。

2 接続とインストール

この章では、USB-MPGを使用できるようになるまでの作業について説明します。
本製品を使用するには以下の手順を行う必要があります。

【接続する】（10ページ）

映像機器や、パソコンと接続します。

↓

【ソフトのインストール】（13ページ）

USBドライバをインストールします。ご使用のOSにより、手順は異なります。続けてMPEG Creatorもインストールします。

↓

【インストール終了後の確認】（19ページ）

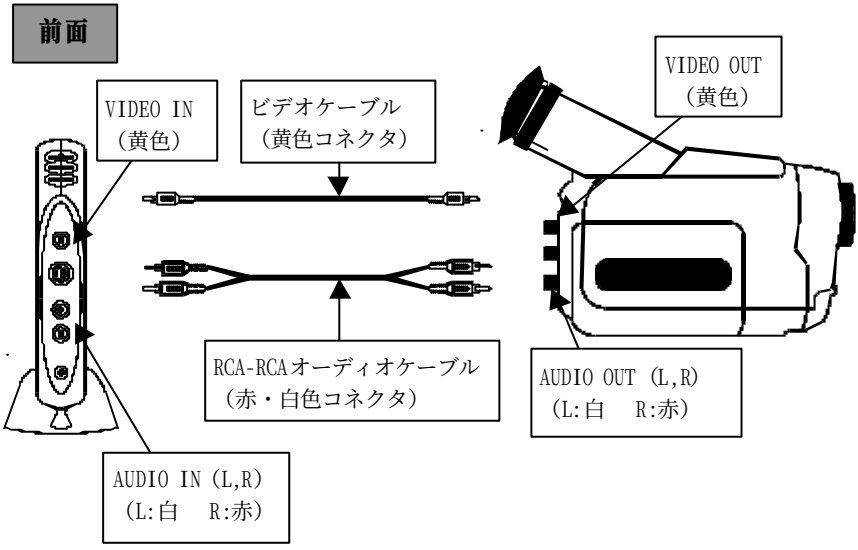
インストール作業が正しくできたかどうかを確認します。

接続する

本書では、映像機器としてビデオカメラを例として説明しますが、他の映像機器でも接続方法は同じです。

《映像機器とUSB-MPGを接続する》

ビデオケーブル（黄色コネクタのケーブル）と、RCA-RCAオーディオケーブル（赤・白コネクタの二股ケーブル）を用意し、映像機器のアウト端子と、USB-MPGのイン端子（前面にある）を、接続します。



参考

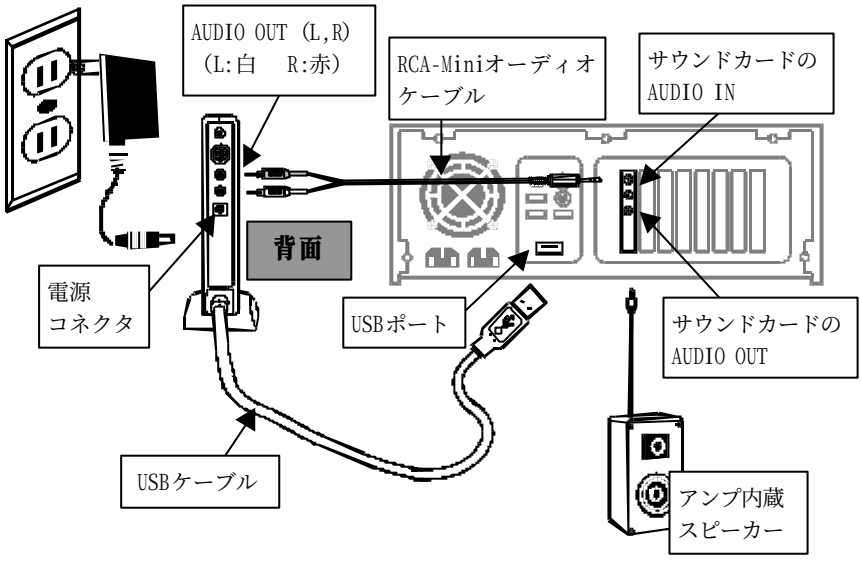
1. 赤色コネクタは赤色端子へ、という風に色を確認しながら接続すると簡単です。

2. 映像機器がＳビデオ対応の場合は、黄色コネクタのビデオケーブルの代わりにＳビデオケーブルを接続することができます。

3. ビデオ会議システムでご使用の場合は、USB-MPGのVIDEO INとＣＣＤカメラを、USB-MPGのMIC INとマイクを接続するだけです。なお、ビデオ会議システムに関するご質問（ソフトウェア上の設定に関してなど）は、弊社ではサポートいたしておりませんのでご了承ください。

《USB-MPGとパソコンを接続する》

RCA-Miniオーディオケーブル（赤・白コネクタの二股で片方が黒コネクタのケーブル）を用意し、USB-MPGのAUDIO OUT端子（背面にある）と、サウンドカードのAUDIO IN端子に接続します。USB-MPGのUSBコネクタをパソコンのUSBポートに接続し、ACコネクタを電源コンセントに差し込みます。



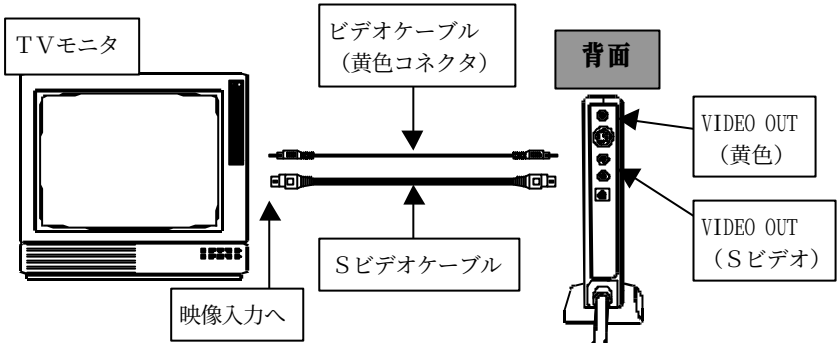
注意

1. スピーカーおよびスピーカーに接続するケーブルは本製品に添付しておりません。別途ご用意ください。
2. USB-MPGのAUDIO OUT端子からはMPEGファイルの音声は出力されません。
3.「MPEG Creator」起動中はUSBコネクタを抜き差ししないでください。

以上で、ハードウェアの基本的な接続は完了です。

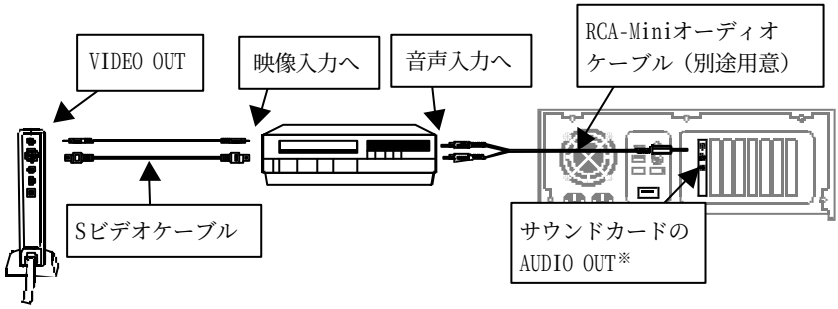
《映像出力のための接続》

USB-MPGには、VIDEO OUT（映像出力コネクタ）もあります。添付のビデオケーブル（黄色いコネクタが両端についているもの）を使って、TVモニタに接続すれば、取り込んだ映像をそのTVモニタに表示することができます。
TVモニタがＳビデオ対応の場合は、ビデオケーブルの代わりに、Ｓビデオケーブルを使ってください。
※映像出力時の操作方法については、46ページ【映像出力】もご参照ください。



※ビデオケーブルとＳビデオケーブルはいずれか一方をご使用ください。

また、VIDEO OUTコネクタをビデオデッキの映像入力に接続し、サウンドカードの音声出力をビデオデッキの音声入力に接続すれば、編集後のMPEGファイルをビデオテープに録画することもできます。
RCA-Miniオーディオケーブルは別途ご用意ください。



※MPEGファイルの音声はサウンドカードのAUDIO OUTから出力されます。

ソフトのインストール

ここでは、USBドライバと「MPEG Creator」をインストールします。
パソコンの電源が入っていないときは、電源を入れ、パソコンを起動してください。

《USBドライバのインストール》

USBドライバのインストール手順は、Windows MeとWindows 98とで異なりますが、いずれの場合でも一度インストールすれば以降この作業は必要ありません。

Windows Meの場合 ⇨ 本ページ

Windows 98の場合 ⇨ 次ページ

● Windows Meの場合

1 添付の「USB-MPGサポートソフトウェア」CD-ROMディスクを、CD-ROMドライブにセットします。

2 USB-MPGの電源を入れると、下記の画面が表示されるので、[次へ]ボタンをクリックします。

下記の画面が表示されない場合は「困ったときには」の86ページを参照してください。



3 「新しいハードウェアのインストールが完了しました」と表示されたら、[完了]ボタンをクリックします。



これで、USBドライバのインストールは完了ですが、引き続き「MPEG Creator」のインストールが始まります。（17ページへ）

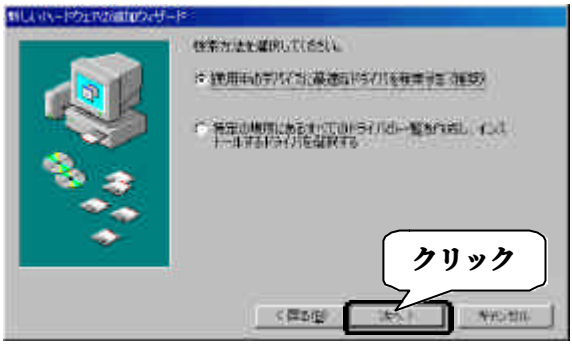
● Windows 98の場合

1 USB-MPGの電源を入れると、下記の画面が表示されるので、[次へ]ボタンをクリックします。

下記の画面が表示されない場合は「困ったときには」の86ページを参照してください。



2 [次へ]ボタンをクリックします。



3 添付の「USB-MPGサポートソフトウェア」CD-ROMディスクを、CD-ROMドライブにセットします。

4 [CD-ROMドライブ]をチェックし、[次へ]ボタンをクリックします。



5 しばらくして下記の画面が表示されるので、[次へ]ボタンをクリックします。



6 「新しいハードウェアデバイスに必要なソフトウェアがインストールされました」と表示されたら、[完了]ボタンをクリックします。

これで、USBドライバのインストールは完了ですが、引き続き「MPEG Creator」のインストールが始まります。（次ページへ）

《MPEG Creatorのインストール》

1 下記の画面が表示されたら、[次へ]ボタンをクリックします。

初期設定でチェックが入っている場合は、DirectX Mediaをインストールする必要があります。画面の指示に従ってインストールしてください。



2 画面の指示に従って、インストールを進めてください。

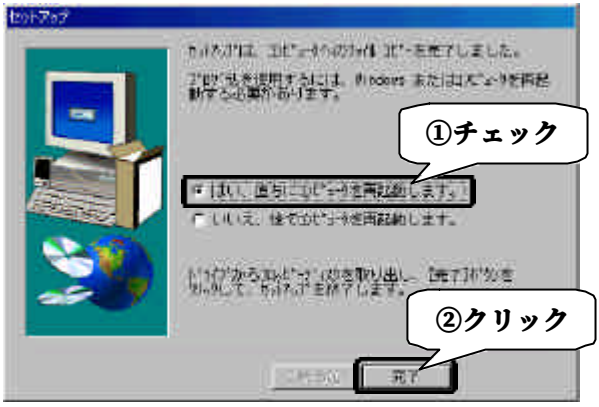
参考 **途中で以下のような質問があります。**
[はい]ボタンをクリックすると現在お使いのスクリーンセーバーをやめ、MPEG Creatorスクリーンセーバー（自由に映像を指定できるオリジナルセーバー）に置き換わります。お使いのスクリーンセーバーをそのままにしたい場合は[いいえ]ボタンをクリックしてください。[いいえ]ボタンをクリックしても、後でMPEG Creatorスクリーンセーバーに設定することができます。



現在のスクリーンセーバーをやめたくないときにクリック

現在のスクリーンセーバーをやめて、MPEG Creatorでこれから作成するスクリーンセーバーにしたいときにクリック

3 下記の画面が表示されたら、[はい、直ちに…]をチェックし、[完了]ボタンをクリックします。



パソコンが再起動したら、インストール完了です。次項の【インストール終了後の確認】へ進んでください。

参考

1. 「MPEG Creator」を削除したいときは[スタート]→[プログラム]→[Usb-mpg]→[アンインストール　MPEG Creator]をクリックし、画面の指示にしたがって、処理を行ってください。ただし、アンインストール時には、「MPEG Creator」で作成した動画、静止画のファイルは削除されずに残ります。これらのファイルは必要に応じて、エクスプローラなどで削除してください。
2. USBドライバがインストール済みのときは、「MPEG Creator」CD-ROMをセットすると「MPEG Creator」だけのインストールが始まります。
（17ページ【MPEG Creatorのインストール】参照）
自動的に起動しない場合は[スタート]→[ファイル名を指定して実行]で、CD-ROMに入っているSETUP.EXEを起動してください。

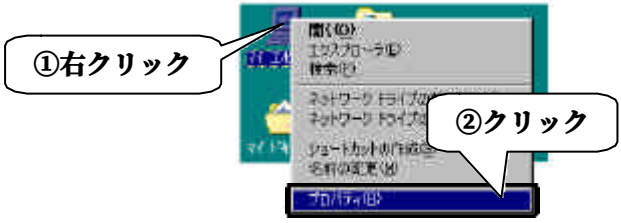
インストール終了後の確認

ここでは、USBドライバのインストール確認と、接続が正しく行われているかどうかの確認を行います。

《USBドライバの確認》

この作業は、Windows Me、Windows 98共通です。

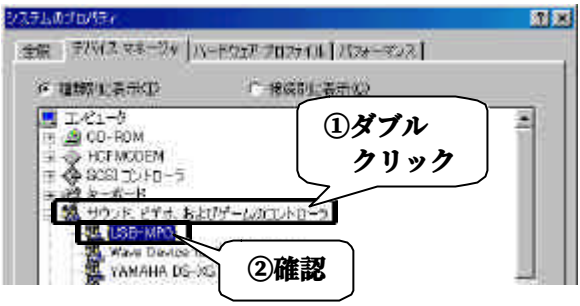
1 [マイコンピュータ]アイコンを右クリックし、[プロパティ]をクリックします。



2 [デバイスマネージャ]タブをクリックします。



3 [サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ]をダブルクリックし、[USB-MPG]が表示されることを確認します。



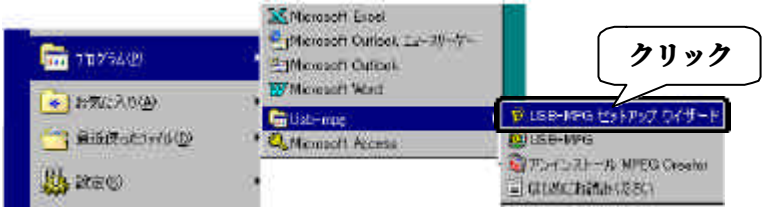
注意 「USB-MPG」が表示されない、または先頭に「！」がついている場合は、【困ったときには】の86ページを参照してください。

《接続の確認》

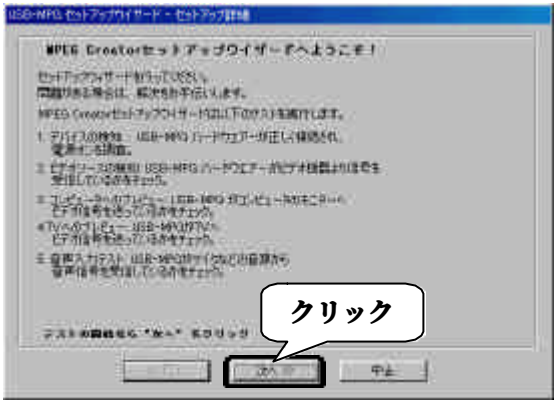
USB-MPGには、接続が正しく行われているかどうかを、ウィザード形式で簡単に確認できるユーティリティ「セットアップウィザード」が付いています。
これは最初に接続したときだけでなく、映像機器を変更した場合やMPEG Creatorで正しく映像が取り込めなかった場合などの動作確認にも使えます。

1 「USB-MPG セットアップウィザード」を起動します。

[スタート]→[プログラム]→[Usb-mpg]→[USB-MPGセットアップウィザード]をクリックします。



2 初期画面が表示されたら、接続した映像機器を再生状態にしてから、[次へ]ボタンをクリックします。



3 USBケーブルの接続チェックを行います。

下記の画面が表示されないときは接続OKなので、次の操作へ進んでください。

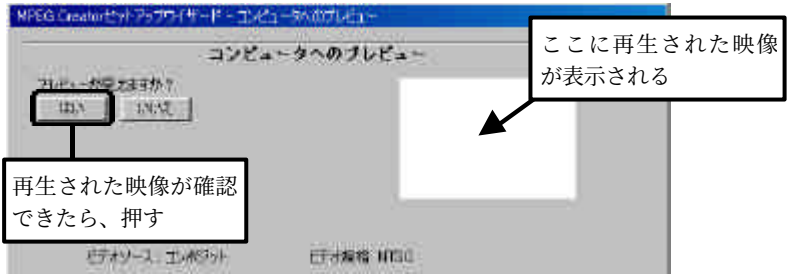
下記の画面が表示されたときは、USBコネクタがパソコンにしっかり接続されているかどうか、USB-MPGの電源が入っているかを確認後、[デバイスの検知]ボタンをクリックしてください。



4 映像機器のプレビューチェックを行います。

- 図１の画面が表示されたら、再生された映像を確認してください。OKなら[はい]ボタンをクリックします。
- 図２の画面が表示されたら、接続や映像機器の再生状態を確認後、[ビデオソースの検知]ボタンをクリックします。

●（図１）映像機器からの映像が認識できた場合



●（図２）映像機器からの映像が認識できなかった場合



注意

1．図１の画面が表示されても、プレビューが正しく行われないときは[いいえ]ボタンをクリック後、ケーブルの接続や映像機器の電源が入っているかどうか、再生状態になっているかどうかなどを確認し、再度[ビデオソースの検知]ボタンをクリックしてください。

2．コンピュータのプレビュー画面に表示される映像は多少コマ落ちした（動きが荒い）感じになりますが、異常ではありません。

3．一部のグラフィックボード(弊社のGA-P IB/PCI 、GA-P IH8/PCI など) と併用した場合に、プレビュー画面が乱れる場合がありますが、MPEG Creator を使用した動画、静止画の取り込みには支障はありません。

5 TVプレビューのチェックを行います。

USB-MPGのVIDEO OUT（背面にある）にTVやビデオデッキを接続していないときは、[いいえ]ボタンをクリックします。



6 音声のチェックを行います。

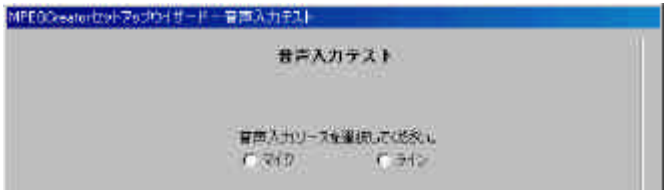
USB-MPGのAUDIO IN端子またはMIC IN端子に接続した場合は[はい]ボタンをクリックします。

※接続しない場合、映像の取り込み時などの際、音声は取り込まれません。



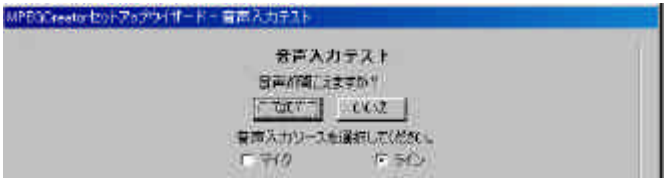
7 音声の入力先を選択します。

AUDIO IN端子（赤/白）に接続した場合は[ライン]を、MIC IN端子の場合は[マイク]をチェックします。



8 音声が聞こえることを確認します。

マイクを接続した場合は、マイクに向かって話しかけてください。
音声が聞こえた場合は[はい]ボタンをクリックします。
音声が聞こえない場合は[いいえ]ボタンをクリックしてから、接続や映像機器のボリューム（10、11ページ参照）を確認してください。



9 下記の画面が表示されたら、[終了]ボタンをクリックし、チェックを終了します。



これで、USB-MPGの接続テストは完了です。
次ページ以降の【MPEG Creatorの基本をマスターする】では、添付のMPEG Creatorの基本的な使い方を説明しています。ビデオクリップの作成や編集を楽しんでください。

3 MPEG Creatorの基本をマスターする

この章では、USB-MPG専用ソフトウェアである「MPEG Creator」を使って、簡単な映像の取り込みや編集を行ってみましょう。

【基本の操作】 （26ページ）

起動方法や最初に表示される画面の見方、基本操作を説明します。

▼

【映像をパソコンに取り込む】 （28ページ）

一番基本の機能である、映像の取り込みおよびMPEGファイル保存について説明します。静止画や音声の取り込みもできます。

▼

【簡単なビデオ編集をする】 （35ページ）

保存したMPEGファイルを編集してみましょう。不要な部分のカット、別々の映像のつなぎ合わせなどができます。

▼

【便利な使い方いろいろ】 （41ページ）

その他にも覚えておいて便利な機能を説明します。
・取り込んだ映像を使って、オリジナルスクリーンセーバーを作る
・取り込んだ映像を貼り付けたWEBページを作る
・取り込んだ映像を添付したE―Mailを送信する
・ワークスペースの便利な使い方など

▼

【映像出力】 （46ページ）

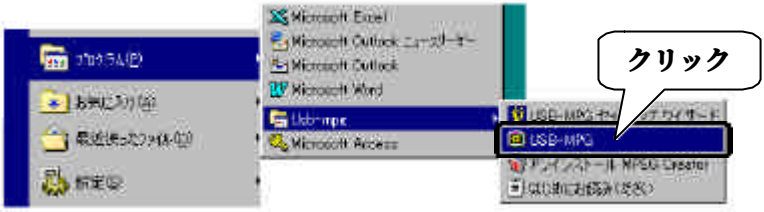
MPEGファイルをテレビに表示したり、ビデオに録画することができます。

基本の操作

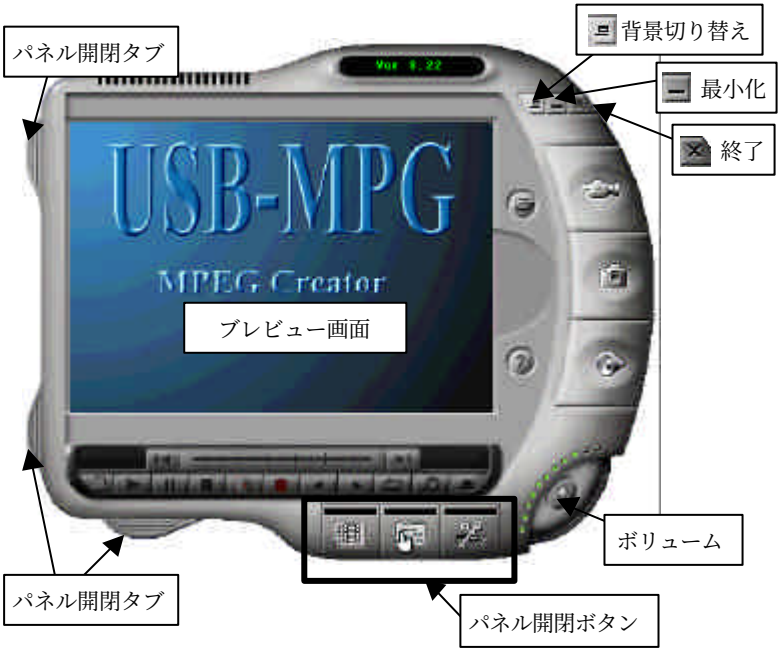
《起動しよう》

1 「MPEG Creator」を起動します。

[スタート]→[プログラム]→[Usb-mpg]→[USB-MPG]をクリックします。



2 初期画面（基本パネル）が表示されます。



3 終了アイコンをクリックすると、終了します。

《パネルの開閉》

MPEG Creatorには基本パネルのほかに３つのパネルがあります。各パネルの開閉は、パネル開閉ボタンをクリックするか、パネル開閉タブをクリックします。
パネルを開いているときは各開閉ボタンのランプが緑色になります。

■アルバムパネル開閉ボタン



動画や静止画、音声などのファイル（クリップ）を管理するパネルです。一番よく使うパネルになります。

■オプションパネル開閉ボタン



詳細設定を行うときのパネルです。

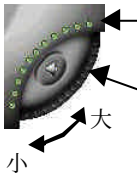
■ビデオ編集パネル開閉ボタン



取り込んだ動画や静止画を編集するパネルです。



《ボリューム》



ボリュームレベル：緑ランプが多いほど大きい

ドラッグ＆ドロップでボリューム調整
中央のスピーカーアイコンをクリックすると
消音（「×」マークが表示される）の切り替え

《背景切り替え》

このボタンをクリックすると、MPEG Creatorの背景が消え、Windowsのデスクトップが表示されます。

映像をパソコンに取り込む

ここでは、接続した映像機器から映像をパソコンに取り込み、ハードディスクにMPEG動画ファイル（ビデオクリップ）、静止画ファイル（スナップショットクリップ）、音声ファイル（オーディオクリップ）を作成してみましょう。また、作成したクリップをMPEG Creatorで再生してみます。

《ビデオクリップを作る》

1 USB-MPGおよび接続した映像機器の電源を入れ、再生状態にします。

取り込みたい映像の少し前から再生すると取り込みがスムーズになります。

2 ビデオモードボタンをクリックします。

しばらくすると、接続した映像機器の映像がプレビュー画面に表示されます。
ボリュームボタンをドラッグ＆ドロップして音声を調整してください。



参考

- **映像が正しく表示されない場合は、「ビデオ設定ボタン」（73ページ）をご参照になり、設定を変更してください。**
- **ビデオCD用のMPEGファイルを作成する場合は、79ページをご参照の上、形式の名前を「ビデオCD」に設定してください。**

3 取り込みたい映像になったら録画ボタンをクリックし、映像が終わったら、停止ボタンをクリックします。

収録中の映像は、自動的にMPEG形式のビデオクリップとしてハードディスクに保存されます。録画、停止を繰り返して、複数のビデオクリップを作成することができます。

※録画したファイルは62ページの[オプション]ボタンで指定されたフォルダに保存されます。



参考 **収録できるビデオクリップの大きさ（映像の長さ）はハードディスクの空き容量に依存します。最大値（ファイルサイズや録画時間）を設定しておくこともできます。詳しくは「録画時間オプション」（84ページ）を参照してください。**

4 取り込みがすべて終了したら、もう１度、ビデオモードボタンをクリックします。

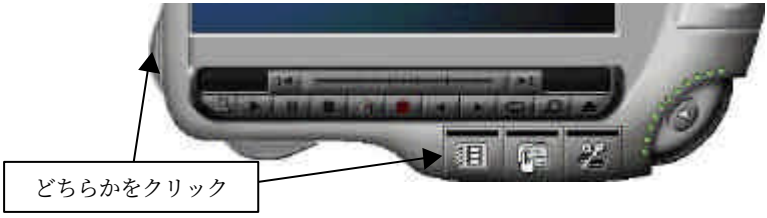
プレビュー画面が消え、コントロールパネルが使用できなくなります（半透明カバーがかかった状態）。

《ビデオクリップを再生する》

収録されたビデオクリップは、アルバムパネルの「ワークスペース」というところで管理されています。パネルを開いて、ビデオクリップを再生してみましょう。

1 アルバムパネルを開きます。

パネル開閉ボタンまたは開閉タブをクリックします。基本パネルの左側にアルバムパネルが開きます。

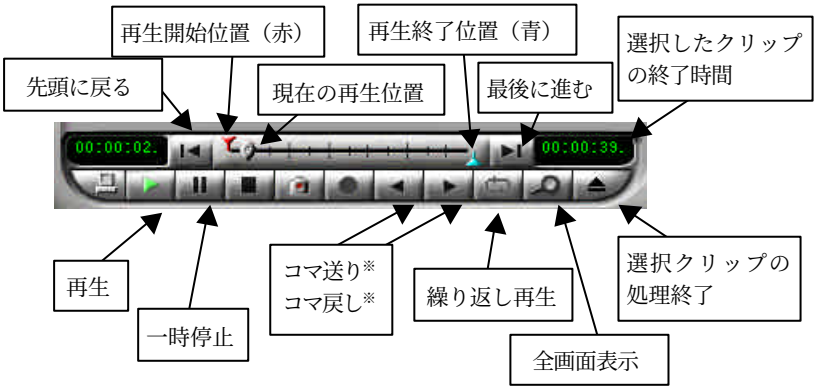


2 再生したいクリップをダブルクリックすると、再生します。



《再生時に使うコントロールボタン》

再生時にはコントロールパネルのボタンでいろいろな操作が行えます。



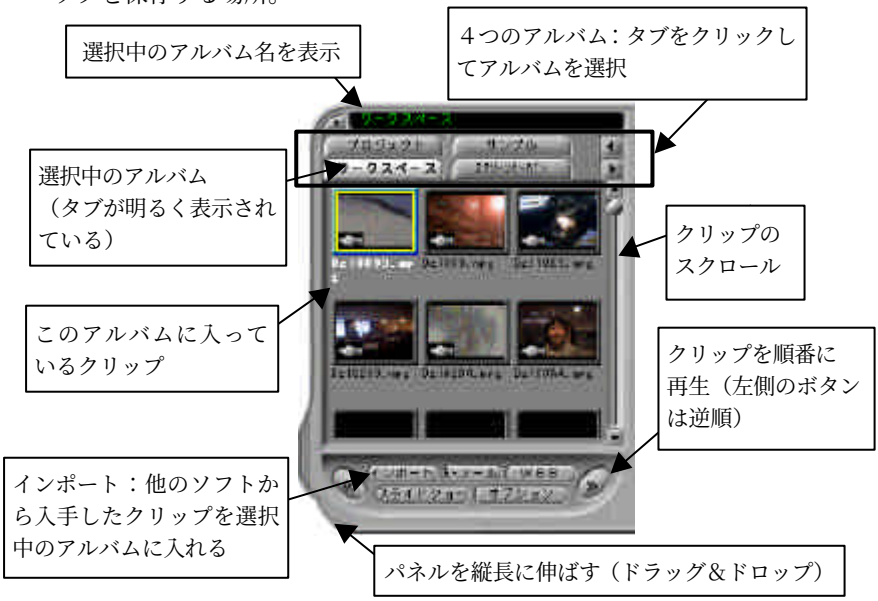
※Windows Me、もしくはDirectX 8環境の場合、「コマ送り」、「コマ戻し」機能はご使用いただけません。

再生開始位置、再生終了位置、現在の再生位置は自由にドラッグして指定することができます。コントロールパネルの詳細については【コントロールパネル】52ページを参照してください。

《アルバムパネル》

Windowsではファイルを整理するためにフォルダがあるように、MPEG Creatorでは、クリップを整理するための「アルバム」があります。アルバムパネルを開くとそのアルバムが参照できます。MPEG Creator起動時には４つのアルバムがすでに作成されていますが、自由に追加することができます。

1. ワークスペースアルバム：収録したクリップのタイトルなど表示する場所。
2. プロジェクトアルバム：編集中の情報を表示する場所。
3. サンプルアルバム：CD-ROMに保管されているサンプルクリップ集。
4. スクリーンセーバーアルバム：MPEG Creatorスクリーンセーバーにしたいクリップを保存する場所。



参考

1．プロジェクトアルバムは【編集の途中で保存するには】（40ページ）で、スクリーンセーバーアルバムは【オリジナルのスクリーンセーバーを作る】（41ページ）で説明します。アルバムの詳細については【アルバムパネル】（57ページ）を参照してください。

2．アルバムを追加するには、アルバムタブのところで右クリックして、【New Album】を選んでください。新しく作成したアルバムには、ワークスペースに入っているクリップを自由にカット＆ペーストできます。

3．**ワークスペースアルバムには、作成したクリップファイルそのものが入っているわけではありません。ワークスペースアルバムとは各種クリップのタイトルなどを表示する、画面表示上だけの場所を示します。クリップファイルが格納されている実際のフォルダについては、62ページ「オプションボタン」をご参照ください。**

《クリップのマーク》

クリップについているマークでクリップの種類や状態を見分けることができます。

 ビデオカメラマーク：ビデオクリップ（動画）

 カメラマーク：スナップショットクリップ（静止画）

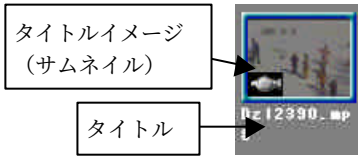
 スピーカーマーク：オーディオクリップ（音声）

 ×マーク：クリップ使用禁止（クリップが見つからないなど）

クリップの枠：選択中のクリップは青色で、再生中のクリップは黄色になります。

《クリップのタイトルを変える》

取り込み後のクリップのタイトルはMPEG Creatorが自動的につけたものです。わかりやすいタイトルに変えてみましょう。



1 タイトルを変更したいクリップを右クリックし、[プロパティ]をクリックします。

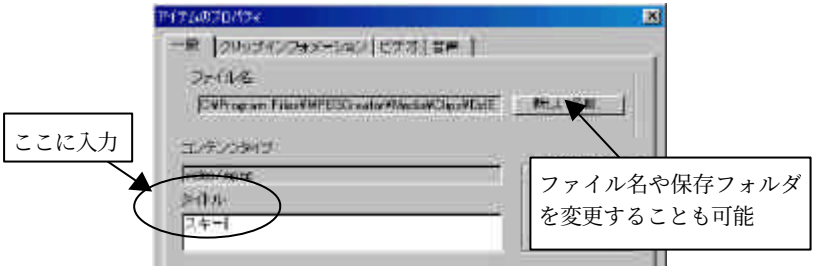


参考 **右クリックで表示されるメニューと働き**

- **開く：クリップを再生します。**
- **切り取り、コピー、貼り付け：クリップを他のアルバムへカット＆ペースト。**
- **削除：このクリップを削除します。**

・送る：スクリーンセーバータブへクリップをセットします。
・サムネイル変更：クリップのタイトルイメージを変更します。
（詳しくは【サムネイルを変える】44ページで説明します）
・プロパティ：クリップの各種設定を行います。

2 タイトルを入力し、[OK]ボタンをクリックします。



《スナップショットクリップを作る》

基本的な手順はビデオクリップと同じです。映像の中から好きなシーンを静止画として作成できます。

1 接続した映像機器の電源を入れ、再生状態にします。

2 スナップショットモードボタンをクリックします。



3 取り込みたい映像になったら、スナップショットボタンをクリックします。

ボタンをクリックした瞬間の映像が、あらかじめ設定された形式（初期値：BMP形式）のスナップショットクリップとして保存されます。何度もスナップショットボタンをクリックして、複数のクリップを作成することができます。



ここで保存されたスナップショットクリップは、ビデオクリップと同様に「ワークスペース」で管理されます。このクリップをプレビュー画面に表示したいときは、クリップをダブルクリックします。

参考 **サイズを変更したい場合や、BMP形式以外の形式で保存したい場合は、あらかじめ形式を設定しておく必要があります。設定方法は【画像タブ】77ページを参照してください。**

《オーディオクリップを作る》

手順はビデオクリップ作成時と同じですが、「ビデオモードボタン」ではなく、「オーディオモードボタン」をクリックしてください。好きなシーンの音声を取り出し、WAVE形式またはMPEG形式（初期値）のファイルとして保存できます。



ここで保存されたオーディオクリップは、ビデオクリップと同様に「ワークスペース」で管理されます。このクリップを再生したいときは、クリップをダブルクリックします。

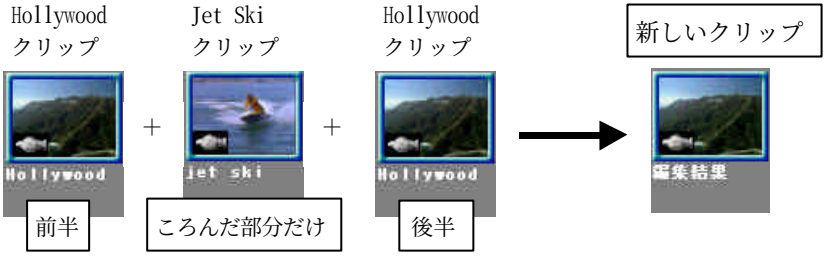
参考 **MPEG形式以外の形式で保存したい場合は、あらかじめ形式を設定しておく必要があります。設定方法は【録画/録音タブ】79ページを参照してください。**

簡単なビデオ編集をする

《こんな編集をしてみよう》

ここではMPEG Creator添付のサンプルクリップを使って、以下のようなビデオ編集を行ってみましょう。

※編集可能なクリップは、MPEGファイルのみです。オーディオファイルは編集できません。



《アルバムパネルとビデオ編集パネルを開ける》

サンプルを使うときは、MPEG Creator CD-ROMディスクをセットしてください。

1 アルバムパネルを開き、サンプルタグをクリックします。

サンプルとしてCD-ROMに入っているクリップが表示されます。



2 ビデオ編集パネルを開きます。



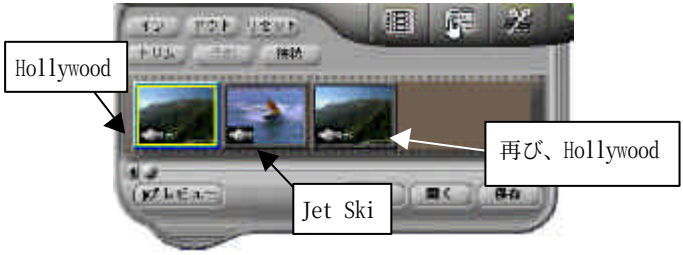
《複数のクリップを使うには》

1 アルバムパネルのHollywoodクリップを、ビデオ編集パネルのフィルムエリアにドラッグ&ドロップします。



2 編集したいクリップすべてを、接続する順番に、フィルムエリアに並べます。

クリップとクリップの間にドラッグすると、その位置に挿入できます。



注意

フィルムエリアに複数のクリップを並べる場合
それぞれのクリップが同じ形式、同じサイズ、同じ設定で取り込まれたクリップしか、同時に並べることはできません。違う形式のクリップをドラッグすると「最初のクリップに矛盾しています」というエラーメッセージが表示されます。

参考

1. **フィルムエリアのクリップを並び替えるには**
   順番を変えたいクリップを、挿入したいクリップの上までドラッグし（カーソルの形がドラッグ用になったところで）、ドロップします。
2. **フィルムエリアに並べたクリップを消したいときは**
   消したいクリップを選び、「Delete」キーを押します（クリップそのものが削除されるわけではありません）

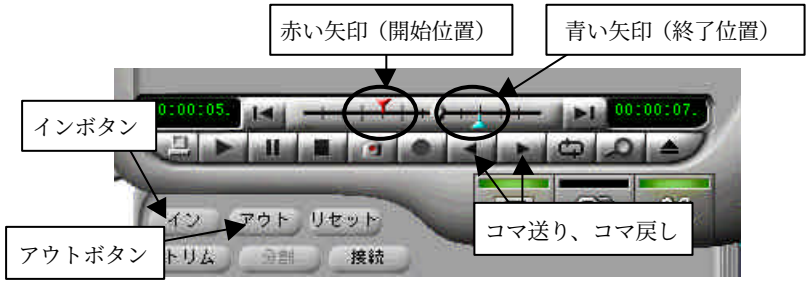
《クリップの必要な部分だけを取り出すには》

必要な部分だけを取り出すことを「トリミング」といいます。

1 フィルムエリアにある、編集したいクリップをダブルクリックします。

2 プレビュー画面を見ながら、必要な部分の開始時にインボタン、終了時にアウトボタンをクリックします。

インボタンをクリックした位置には赤印、アウトボタンをクリックした位置には青印がマークされます。赤印から青印までを取り出すことが出来ます。
リセットボタンをクリックして何回でもやり直しができます。
また、より正確な位置決めをするときはコマ送り、コマ戻しボタンを利用してください。



※イン・アウト位置の指定はそれぞれ１ケ所のみです。

3 再生ボタンをクリックすると指定した部分だけを再生します。

赤い矢印、青い矢印はマウスで直接、ドラックして移動することもできます。

以上の処理を繰り返して、編集したいクリップに必要なトリミング処理を行います。

《複数のクリップをつなぎ合わせる》

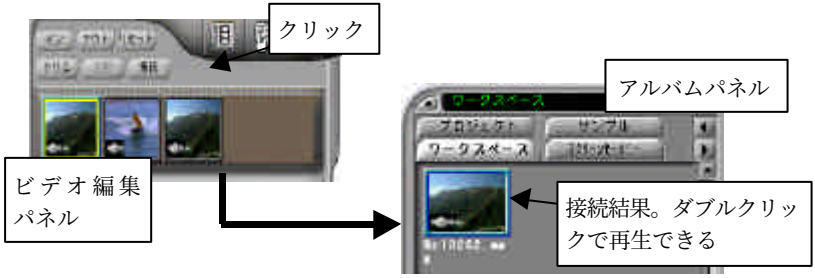
1 プレビューボタンをクリックして、編集内容を確認します。

プレビューボタンをクリックすると、フィルムエリア上のクリップを順番に再生するので（音声は出ません）、トリミング部分を確認します。
変更したければ、そのクリップをダブルクリックしてから、イン・アウト位置を変えてください。プレビュー中にもう１度、プレビューボタンをクリックすると、再生を中止します。



2 確認できたら、接続ボタンをクリックします。

接続ボタンが淡色表示になっているときは、もう１度プレビューボタンをクリックしてください。接続ボタンをクリックすると、ワークスペースに接続後のクリップが作成されるので、確認します。



これで編集が完了しました。
新しいクリップのタイトルイメージ（サムネイル）は自動的に設定されますが、自由に変更できます。「サムネイルを変える」42ページを参照してください。

《トリミングして新しいクリップを作る》

前述の例では３つのクリップをトリミングし、１つのクリップに接続しましたが、１つのクリップのトリミング結果を新しいクリップにしておくこともできます。

1 編集したいクリップを、ビデオ編集パネルのフィルムエリアにドラッグ&ドロップします。

2 イン・アウト位置を決めます。

3 位置が決まったら、トリムボタンをクリックし、新規か交換かを選びます。



新規：
元のクリップはそのままで、トリミング後のクリップを新規作成。

交換：
元のクリップを削除して、トリミング後のクリップと置き換え。

4 ワークスペースに新しいクリップができます。

参考 **クリップを２つに分ける「分割」も同様の手順で行います。このときは、アウト位置だけを指定し、分割ボタンをクリックしてください。**
新規と交換はトリミング時と同じです。

《編集の途中で保存するには》

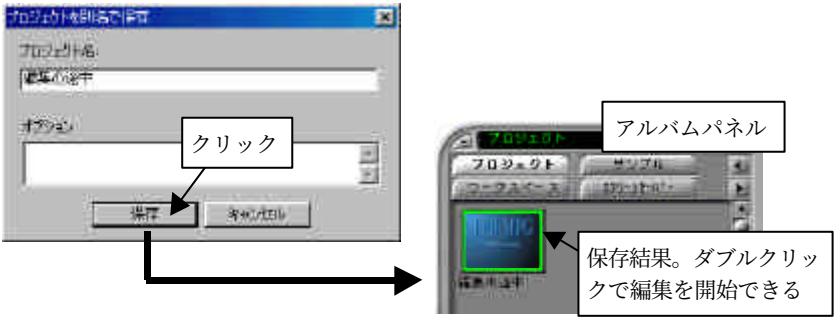
ビデオ編集している途中で、フィルムエリアに置いたクリップやそのクリップのイン・アウト位置などを保存することもできます。それらは「プロジェクト」として管理され、いつでも呼び出して、編集の続きができるようになります。
ここではプロジェクトの保存と呼び出しをやってみましょう。

1 ビデオ編集の途中で、保存ボタンをクリックします。



2 プロジェクト名を入力し、保存ボタンをクリックします。

アルバムパネルに、保存したプロジェクトが表示されます。
そのプロジェクトをダブルクリックすると、フィルムエリアに編集内容が表示され、保存したプロジェクトの続きが開始できます。



参考

1. **ビデオ編集パネルの[開く]ボタンをクリックすると、アルバムパネルを閉じているときでも、自動的にプロジェクトアルバムが表示されます。**
2. **フィルムエリア上の編集を中止したいときは**
   ビデオ編集パネルの[新規]ボタンをクリックし、「保存しますか?」の問いで[いいえ]ボタンをクリックします。

便利な使い方いろいろ

《オリジナルのスクリーンセーバーを作る》

■ MPEG Creatorでの作業

1 アルバムパネルを開き、スクリーンセーバーにしたいクリップを、再生したい順にスクリーンセーバーアルバムに送ります。

スクリーンセーバーにしたいクリップを右クリックして、[送る]→[スクリーンセーバー]をクリックします。複数のクリップを選択して１度にスクリーンセーバーエリアに送ることもできます。ただし、オーディオクリップは再生できません。



2 スクリーンセーバータブをクリックして、送ったクリップを確認します。

クリップは左から右、上から下の順でスクリーンセーバーとして再生します。クリップをドラッグ＆ドロップして順番を変えることもできます。

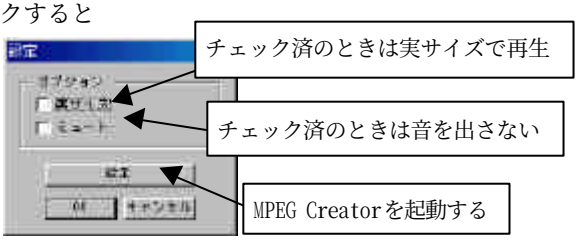
■ Windowsでの作業

画面のプロパティを起動し、スクリーンセーバーとして「Mpegcreator」を選びます。

Windowsの壁紙部分で右クリックすると画面のプロパティ画面になるので、スクリーンセーバータグをクリックします。



設定ボタンをクリックすると



注意 **このスクリーンセーバーを設定していてUSB-MPG の電源を切った状態で不具合が発生した場合は、USB-MPG の電源を切らないでください。スクリーンセーバーが起動するときにUSB-MPGの電源が入っていないと、パソコンが処理不能になる場合があります。（この場合はパソコンの電源を切ってください）**

参考

1. **クリップのサイズが小さいと、スクリーンセーバーで再生したときに画像が荒くなります。大きいサイズのクリップを設定するか、実サイズで再生してください。**
2. **設定オプションおよび待ち時間はMPEG Creatorでも設定できます。「スクリーンセーバー設定ボタン」75ページを参照してください。**
3. **スクリーンセーバーから復帰した際にデスクトップのアイコンが画面左上に集中してしまうことがあります。この場合は実サイズをチェックするか、デスクトップで「アイコンの自動整列」をチェックしてください。**

《WEBページを作る》

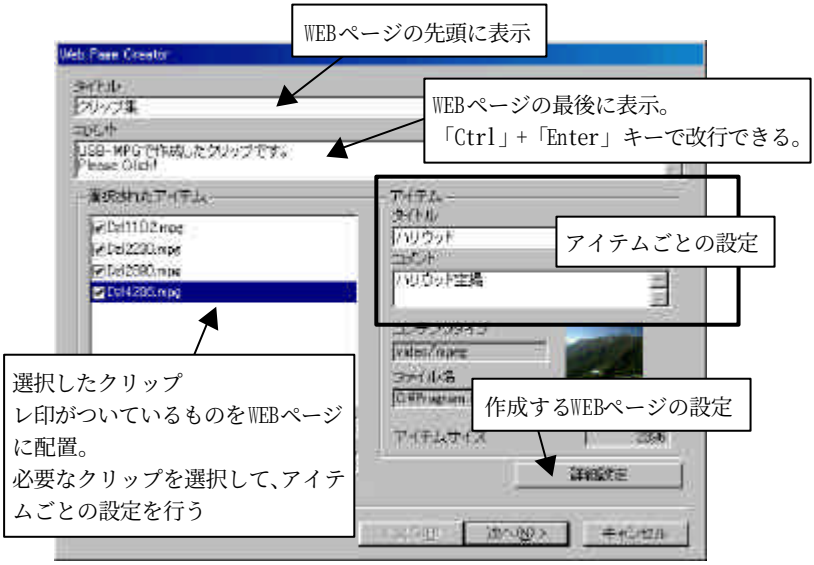
好きなクリップを貼り付けた、クリップ集形式のWEBページを簡単に作成できます。

1 アルバムパネルのワークスペースを開き、WEBページに貼り付けたいクリップを選択し、WEBページボタンをクリックします。

複数のクリップを選択するときは、「Ctrl」キーを押しながらクリックします。

2 必要なデータを入力し、[次へ]ボタンをクリックします。

アイテム（クリップ）のタイトルなどを設定する場合は、左側のアイテム一覧で、設定したいアイテムをクリックしてから入力します。



参考 **詳細設定ボタンで、作成するWEBページの設定（クリップ集の並べ方や背景など）を変更することもできます。詳しい使い方は「WEBボタン」61ページを参照してください。**

3 表示された画面を確認し、[次へ]ボタンをクリックします。

作成したWEBページの保管場所などを変更することもできます。

4 「WEBページが完成しました」と表示されたら、[完了]ボタンをクリックします。

「WEBページを見る」がチェックされていれば、ご使用のパソコンのWEBブラウザが起動し、作成した結果を確認できます。

参考

1. 作成したWEBページは、MPEG Creatorでは修正できません。修正は、メモ帳やホームページ作成ツールで行ってください。

2. WEBページを作成すると、タイトルと同じ名前のフォルダを新しく作成し、その中にワークスペースにあるクリップをコピーします。（指定したタイトルと同じ名前のフォルダが存在すれば、その名前の後に連番を付けます。）

《サムネイルを変える》

クリップのタイトル図（サムネイル）に好きなシーンを設定してみましょう。WEBページを作るときも、ワークスペースでも、クリップがわかりやすくなります。

1 サムネイルにしたい画像をプレビュー画面に表示します。

ビデオクリップ内にある場合は、そのフレームで一時停止します。

2 変更したいクリップを右クリックして、[サムネイル変更]をクリックします。

変更してよければ、[はい]ボタンをクリックします。



《Eメールに添付する》

アルバムパネルのワークスペースから、添付したいクリップを選び（複数可能）、[Eメール]ボタンをクリックすると、ご使用のパソコンに設定されているMAPI対応のメーラー（Outlook Expressなど）が自動的に起動します（クリップ添付済み）。後は通常通りにメールを作成してください。

《スライドショーを作る》

アルバムパネルのワークスペースから、複数のクリップを選び（オーディオクリップは再生不可）、[スライドショー]ボタンをクリックすると、クリップが順番に全画面表示されます。スナップショットクリップは再生時間を指定することができます。

「フレームボタン」78ページを参照してください。

以上が、MPEG Creatorの主な機能です。ビデオディレクターになれそうですか？
第３章をマスターすればだいたいのことができますが、もっとMPEG Creatorを活用していただくために、第４章をリファレンス形式で用意しました。
必要に応じて参照していただき、ビデオディレクターの腕にみがきをかけてください。

映像出力

MPEGファイルをテレビやビデオに映像出力するには、[出力切り替え]ボタンで「外部出力モード」にします。



音声は、パソコン本体のサウンドカードから出力されます。各ケーブルの接続については、12ページをご参照ください。

注意

- **映像出力が可能なファイルは、ビットレートが「2Mbps」までのMPEGファイルのみです。**
  その他の形式のファイル（AVIファイル、BMPファイル）は出力できません。
- **ビットレートは、キャプチャする際に、[オプションパネル]→[録画/録音]→[形式の変更、追加]ボタンで設定します。（81ページ参照）**

4 MPEG Creatorリファレンス

この章では、USB-MPG専用ソフトウェアである「MPEG Creator」の全機能を説明します。必要に応じて参照してください。

【基本パネル】（48ページ）

MPEG Creatorを起動したときに表示される、基本パネルの機能を説明します。

【コントロールパネル】（52ページ）

クリップの録画／録音／再生時に使うボタンについて説明します。

【アルバムパネル】（57ページ）

作成したクリップの管理をする、アルバムパネルの機能を説明します。

【編集パネル（ビデオ）】（64ページ）

ビデオ編集パネルの機能を説明します。

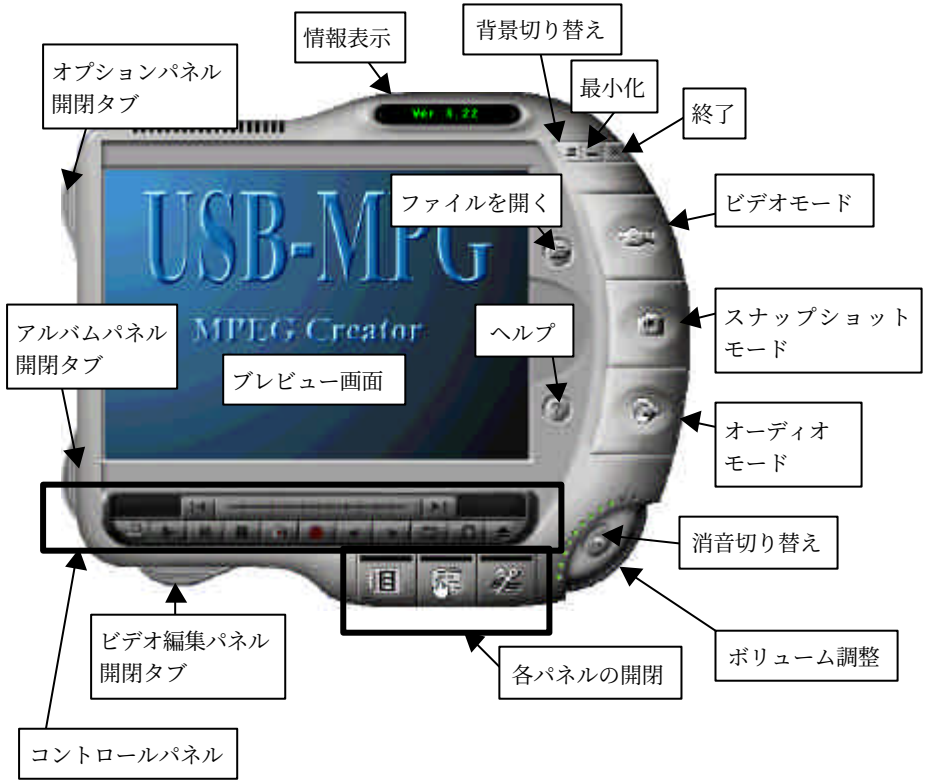
【編集パネル（スナップショット）】（69ページ）

スナップショット編集パネルの機能を説明します。

【オプションパネル】（73ページ）

MPEG Creatorの各種設定を行う、オプションパネルの機能を説明します。
各種設定を駆使して、MPEG Creatorを最大限に活用してください。

基本パネル



各機能の詳細は、上図の時計回りに説明します。それらの機能が第３章で詳しく説明されている場合は、機能名の下にそのページを記しています。必要に応じて参照してください。

情報表示ウィンドウ



MPEG Creatorのバージョンのほか、プレビュー画面の状態を表す 「プレビュー」、「録画」などを表示します。

背景切り替えアイコン



MPEG Creator起動時は、ビデオ製作に集中することができるように、背景があり、他のアプリ

ケーションやデスクトップが見えないようになっています。このボタンをクリックして、背景の有無を切り替えします。

最小化アイコン



MPEG Creatorを最小化して、タスクバーに表示します。

終了アイコン



MPEG Creatorを終了します。ビデオ編集パネルやスナップショット編集パネルを開いていて、編集中の作業がある場合は、保存するかどうかのダイアログが表示されます。

ビデオモードボタン



第３章　28ページ

クリックすると、ビデオモードに入ります。このモードは映像機器から動画を取り込みます。

ビデオモードボタンをクリックすると：

- プレビュー画面が開き、映像機器からの画像が表示されます。
  （映像機器からビデオ信号を受信出来ないと、警告が表示されます）。
- ビデオウィンドウのすぐ下にあるコントロールボタンが表示され、作動し始めます。

ビデオモードボタンを再度クリックするとビデオモードを終了し、元の状態に戻ります。
ビデオクリップを再生または編集すると、自動的にビデオモードを終了し、再生・編集モードになります。

スナップショットモードボタン



第３章　33ページ

クリックすると、スナップショットモードになります。このモードは、映像機器から静止画(スナップショット）を取り込みます。

スナップショットモードボタンをクリックすると、プレビュー画面が開き、元の映像機器からの画像が表示されます（映像機器からビデオ信号を受信出来ないと、警告が表示されます）。

スナップショットモードボタンを再度クリックすると、スナップショットモードを終了し、はじめの状態に戻ります。また、画像ファイルを編集すると自動的にスナップショットモードを終了し、再生・編集モードになります。

オーディオモードボタン



第３章　34ページ

クリックするとオーディオモードに入ります。このモードは映像機器から音声だけを取り込みます。

オーディオモードボタンをクリックすると、プレビュー画面が開き、オーディオクリップグラフィックが表示されます。

オーディオモードボタンを再度クリックすると、オーディオモードを終了し、元の状態に戻ります。また、オーディオファイルを再生すると自動的にオーディオモードを終了し、再生編集モードになります。

消音切り替えボタン



第３章　27ページ

クリックすると、音量のON/OFFを行います。OFFのときはスピーカーマークに赤い「×」印がつきます。

ボリューム調整スライド



第３章　27ページ

スライドをクリックし、上方にドラッグすると、音量を大きくできます。下方にドラッグすると、音量を小さくできます。音量のレベルは緑色のランプで示されます（点灯ランプが多いほど音量が大きい）。

各パネルの開閉ボタン



第３章　27ページ

左からアルバムパネル、オプションパネル、ビデオ編集パネルの３つのパネルを開閉するためのボタンです。これらのボタンをクリックすると、基本パネルの左または下にあるパネルを開けたり、閉めたりできます。同時に複数のパネルを開けることが出来ます。
パネルが開いているときは、ボタンの上部に緑色のランプが点灯します。

- アルバムパネル: ユーザーの作成したマルチメディアファイルのオリジナルクリップを作成したり、変更したりするのに使います。アルバムパネルはクリップを整理しやすくし、作品ファイルを効率的に保存、アクセス可能にします。
- オプションパネル：映像機器からイメージや音を見たり、取り出したりするための、各種設定を行います。
- ビデオ編集パネル：クリップを編集するためのパネルです。スナップショットクリップを

選択してこのパネルを開けたときは、スナップショットの編集パネルになります。

編集パネル開閉タブ

クリックすると、編集パネルを開いたり、閉じたりします。

コントロールパネル

クリップの録画／録音／再生をコントロールします。各ボタンの説明は「コントロールパネル」50ページを参照してください。プレビュー画面にクリップがロードされていないときは、コントロールボタンパネルは、薄い色に変わり、使用できません。

アルバムパネル開閉タブ

クリックすると、アルバムパネルを開いたり、閉じたりします。

オプションパネル開閉タブ

クリックすると、オプションパネルを開いたり、閉じたりします。

プレビュー画面

基本パネルの中央部にある大きめの長方形のウィンドウが、プレビュー画面です。この画面はどのモードでも表示され、映像を再生する時に、映像機器のイメージを映します。また、プレビュー画面は音声を録音中、オーディオクリップグラフィックを表示します。

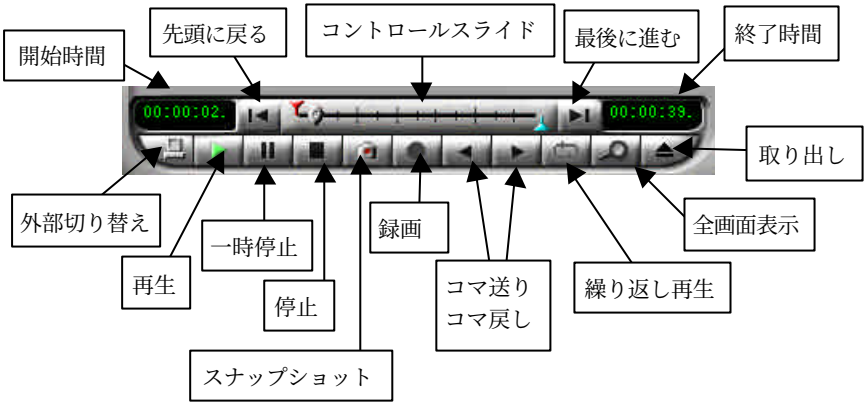
ヘルプボタン 

クリックすると、オンラインヘルプガイドが表示されます。

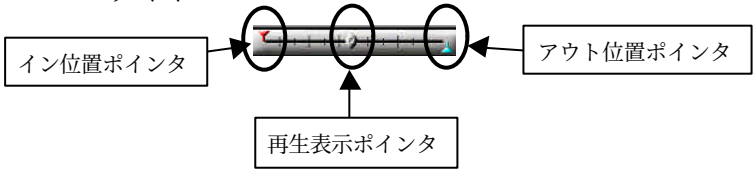
ファイルを開くボタン 

指定したマルチメディアファイルをプレビュー画面で再生できます。他のアプリケーションなどから入手したファイルを確認するときにお使いください。

コントロールパネル



コントロールスライド



各機能の詳細は、上図の時計回りに説明します。それらの機能が第３章で詳しく説明されている場合は、機能名の下にそのページを記しています。必要に応じて参照してください。

開始時間



開始時間表示は、使用中のモードによって違う情報を表示します。

- ビデオクリップを再生している時
  再生表示ポインタの現在位置の時間を（時間：分：秒）で表示します。
- 複数のスナップショットまたはスライドを再生しているとき
  現在、何枚目の画像が再生されているかを表示します。

先頭に戻るボタン



- ビデオクリップを再生している時、このボタンをクリックすると再生表示ポインタが即座に、クリップのはじめのフレームに移ります。
- 複数のスナップショットまたはスライドを再生しているとき、このボタンをクリックすると再生表示ポインタが、はじめのショットに戻ります。

コントロールスライド



第３章　37ページ

コントロールスライドは、ビデオクリップまたは複数セットの画像を素早く早送り、巻き戻しするのに使われます。
再生するに従い、再生表示ポインタの場所がスタートタイムウィンドウに表示されます。
また、イン位置ポインタ（赤印）は再生開始位置を、アウト位置ポインタ（青印）は再生終了位置を示します。いずれのポインタも、マウスのドラッグで移動できます。

最後に進むボタン



- ビデオクリップを再生している時に、このボタンをクリックすると、即座に再生表示ポインタがクリップの最後のフレームに移ります。
- 複数のスナップショットあるいはスライドを再生している時に、このボタンをクリックすると、再生表示ポインタが、最後のショットに素早く移ります。

終了時間



終了時間表示は使用しているモードにより、違った情報を表示します。

- ビデオクリップを再生しているとき
  終了時間は現在のクリップにかかるトータル所要時間（時間：分：秒）を表示します。
- 複数のスナップショットあるいはスライドを再生しているとき
  終了時間は、トータルの画像の枚数を表示します。

取り出しボタン



プレビュー画面にロードしたクリップを取り出します。このボタンをクリックすると、その時点でロードされているクリップ（ビデオ、オーディオ、静止画像のいずれでも）の処理が終了し、コントロールパネルが使えなくなります。
例えば、スナップショットクリップを再生後、ビデオクリップを編集したいとき、ビデオ編集パネル開閉ボタンをクリックする前に、このボタンをクリックしてください。（スナップショ

ットクリップをロードしたまま、編集パネル開閉ボタンをクリックすると、スナップショット編集パネルが出てきます）

全画面表示ボタン



クリックした時点でロードされているクリップのタイプによって次の機能があります。

- SIF MPEGビデオファイルを再生している時
  再生ウィンドウがフルスクリーンになります。
- QSIFビデオを再生している時
  再生ウィンドウはSIF規格まで拡大します。
- 静止画像をプレイヤーが表示しているとき
  実際のサイズで画像を表示する別の表示ウィンドウが開かれます。大きいサイズのイメージを見たり編集するのに便利です。

いずれの場合も、全画面表示中に再度クリックすると、ズームをキャンセルします。

参考 **SIF/QSIFフォーマットの画像サイズについては、「イメージサイズ」81ページを参照してください。（プレビュー中の映像は最大化できません。）**

繰り返し再生ボタン



クリックすると、繰り返し再生が有効になり、緑色のランプが点灯します。その場合、再生中のビデオ、スライド、複数のスナップショットは、一時停止あるいは停止が指示されるまで、何度も再生され続けます（エンドレス）。繰り返し再生が無効になっているときは、その時に再生されているクリップなどは一度再生されたら、停止します。

コマ送り、コマ戻しボタン



コマ戻しボタン
一時停止しているビデオクリップのフレームを１つ前に戻したり、一時停止しているスライドを１つ前の画像に戻したり、いくつか前の画像に戻したりする事ができます。
コマ送りボタン
一時停止しているビデオクリップのフレームを１つ後に送ったり、一時停止しているスライドを１つ後の画像に送ったり、あるいは幾つか後の画像に送ったりする事ができます。
※Windows Me、もしくはDirectX 8環境の場合、「コマ送り」、「コマ戻し」機能はご使用いただけません。

録画ボタン



第３章　29ページ
このボタンをクリックすると、使用しているモードによってオーディオあるいはビデオを録画

し始めます。
録画中は、収録中メッセージボックス、あるいはコントロールボタンにある停止ボタンをクリックすると録画を停止する事が出来ます。
停止後は、オプションパネルで選択された設定に応じて、ビデオとオーディオのクリップが保存され、ワークスペースに新しいアイコンが出てきます。

スナップショットボタン 

第３章　33ページ
再生中の映像や、前に録画したビデオクリップから、静止画フレームを取り出すのに使われます。
録画されたビデオクリップを再生しているときに、このボタンをクリックすると、その時点のフレームを静止画像で保存します（より確実にスナップショットを撮るには、画像を取り出す前に一時停止し、コマ送りボタン、コマ戻しボタンを使うと効果的です）。
静止画像はオプションパネルで選択された設定に応じたサイズ、フォーマットで保存され、ワークスペースに新しいクリップが出てきます。

停止ボタン 

ビデオ、スライド、複数の静止画像の再生を停止し、先頭フレームに戻ります。録画中にクリックすると、録画を停止します。

一時停止ボタン 

ビデオ、スライド、画像の再生をその時点で停止します。再生をクリックすると、停止を解除します。
一時停止は、ビデオ編集パネルを使用しているとき、イン・アウト位置を設定するのに便利です。録画されたビデオクリップから静止画像を取り出す時にも便利です。

参考　**一時停止ボタンは、映像機器からのビデオ再生中、あるいは、録画中には使えません。**

再生ボタン 

再生ボタンは一般的なビデオデッキの再生ボタンと同じ様に機能します。ボタンをクリックすると、その時選択されている、もしくは表示されているビデオクリップが再生されます。
再生ボタンはスライドや複数の静止画像を再生している時にも使用できます。

外部切り替えボタン



MPEG Creatorでは、プレビュー画面で直接、映像を再生することもできますが、USB-MPGのVIDEO OUTコネクタを使用すると、テレビのモニターに再生したり、VTRに録画することができます(どちらか一方の再生のみ可能)。
どちらに再生するかを切り替えるには、このボタンを使います。
どちらの再生に設定されているかはボタンのアイコンで判断できます。



プレビュー画面で再生



VIDEO OUTに接続した機器で再生

注意

1. 外部切り替えを行って、音声と映像をVTRに録画しているときは、サウンドカードのAUDIO INに接続されているライン入力やCDオーディオなどの音声をミュート(消音)しておいてください(下記参照)。また、他のWindowsアプリケーションの操作はしないでください。

2. VIDEO OUT端子に接続したビデオ機器にMPEGファイルの映像を出力する場合は、MPEGファイルのビデオビットレートを2Mビット/秒以下にしてください。

●音声のミュート方法

1. タスクバーのスピーカーアイコン(画面右下)をクリックします。



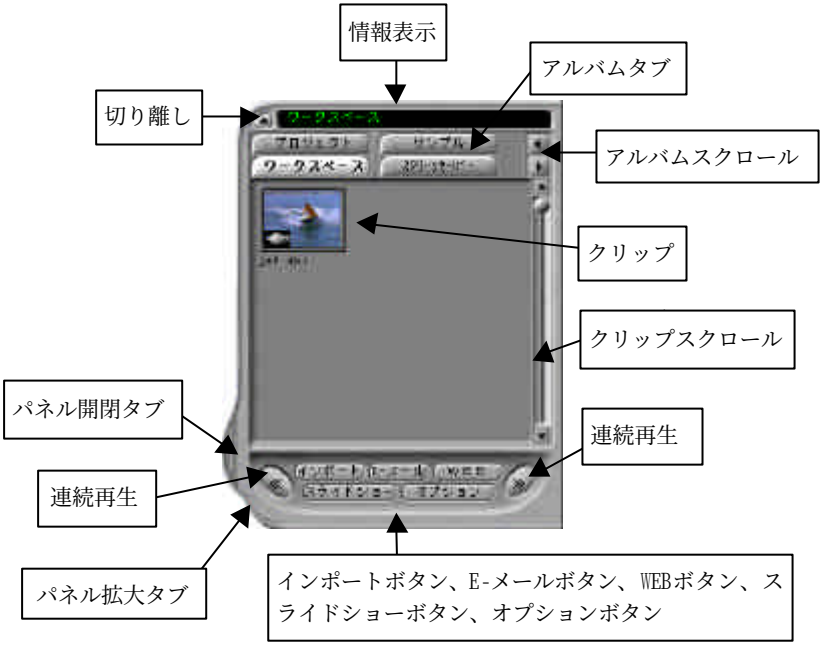
2. 「ミュート」をクリックした後、壁紙部分をクリックします。(音量ダイアログが消え、スピーカーアイコンが下図のように変わればOKです。)



参考

TVモニターを使うときは、長方形のピクセルを持ったSIF形式のビデオフォーマットをおすすめします。QSIF形式のビデオをTVモニターに出力すると、ビデオはTVモニターの左上の角に出てきます。正方形のピクセルで映像を出力しようとしても、TVモニターのスクリーンは埋まりません。設定の方法は「録画/録音タブ」79ページを参照してください。

アルバムパネル



各機能の詳細は、上図の時計回りに説明します。それらの機能が第３章で詳しく説明されている場合は、機能名の下にそのページを記しています。必要に応じて参照してください。

情報表示ウィンドウ

現在、表示しているアルバム名を表示します。

アルバムタブ



第３章　31ページ

アルバムはマルチメディアクリップを整理する基本的な方法です。どのようなタイプのファイルもアルバムに入れる事ができます。

参考　**実際は、アルバムにクリップのファイルそのものが入っているわけではありません。アルバムはクリップへのリファレンス（リンク）を記憶しています。アルバ**

ムパネルはクリップのカタログ（データベース）の役割をします。アルバムにクリップを入れると、そのクリップへのリンクのサムネイルイメージが作成されます。このシステムにより、ディスクにたった１つコピーを保存するだけで、幾つかの違うアルバムにそのクリップをリファレンスする事が出来ます。しかし一度リファレンスされたクリップをエクスプローラなどで移動してはいけません。リンクが壊され、アルバムパネルがクリップを見つけ出せなくなる可能性があります。クリップを移動する場合は必ずアルバムパネル上のカット＆ペーストで行ってください。

MPEG Creatorをはじめて起動したとき、アルバムパネルには、ワークスペース、プロジェクト、サンプル、スクリーンセーバーの４つのアルバムがすでに作成されています。
各アルバムのタグをクリックすることにより、そのアルバムに入っているクリップが表示されます。

新しいアルバムを作成するには：

- アルバムタブ上でマウスの右ボタンをクリックし、[New Album]を選びます。
- アルバムに名前をつけて、[OK]ボタンをクリックします。

アルバムを削除するには：

- 削除したいアルバムタブを右ボタンクリックし、[削除]を選びます。
- 確認を求められたら、[はい]ボタンをクリックします。

アルバムの名前を変更することもできます。

■　ワークスペースアルバム

ワークスペースはその時に作業しているファイルを一時的に保持する場所です。映像機器から取り込んだり、編集して作成した新しいファイルは全て自動的にワークスペースアルバムに置かれます。ワークスペースアルバムは削除出来ません。

■　プロジェクトアルバム

プロジェクトはビデオ編集パネルで作成した作業内容を管理します。保存されたプロジェクトはプロジェクトに含まれるクリップと、それぞれのトリミングポイントなどの設定を全て記憶しています。

新しいプロジェクトを作成する場合は、ビデオ編集パネルの保存ボタンをクリックします。

プロジェクトはプロジェクトクリップを右クリックし、削除を選択すると、簡単に削除できます。ただし、プロジェクトアルバム自体は削除できません。

■　サンプルアルバム

サンプルアルバムには、アルバムパネルで管理できるクリップが見本として入っています。ビデオクリップ、スナップショットクリップ、オーディオクリップそれぞれの再生などMPEG Creatorの操作を覚える意味でも、アルバムを作成する前に、これら例を見ることをお薦めし

ます。サンプルアルバムに入っているクリップはインストール時にハードディスクに格納されませんので、使用する場合は、CD-ROMディスクをご用意ください。サンプルアルバムは削除できます。

■　スクリーンセーバーアルバム
スクリーンセーバーを設定したいときに、クリップを入れておくアルバムです。詳細は第３章「オリジナルのスクリーンセーバーを作る」41ページを参照してください。

クリップ



第３章　32ページ

クリップは複数選択が可能です。複数の選択には、「Ctrl」キーを押しながら、クリックしてください。選択されたクリップは青い枠がつきます。クリップの削除、コピー、名前変更、ドラッグ＆ドロップなどを行うときに便利です。
クリップをダブルクリックすると、そのクリップがプレビュー画面にロードされます。ロードとは、ちょうど、プレーヤー（プレビュー画面）にディスク（クリップ）を入れた状態です。ロードされているクリップは黄色の枠がつきます。
クリップの位置はドラッグ＆ドロップで変更することができます。

クリップを右クリックすると、クリップ操作に関するメニューが表示されます。



■　開く
選択したクリップをプレビュー画面にロードし、再生します。

■　切り取り、コピー、貼り付け
選択したクリップのカット＆ペーストを行います。他のアプリケーションにクリップを渡すこともできます。

■　削除
選択したクリップを現在表示中のアルバムから削除します。
同じクリップを他のアルバムやスクリーンセーバーで使用している場合は、削除できません。

■　送る
選択したクリップをスクリーンセーバーアルバムにコピーします。

■　サムネイル変更
選択したクリップ（１つのみ）のサムネイル（タイトルイメージ）を変更します。詳しい操作は第３章「サムネイルを変える」42ページを参照してください。

■　プロパティ
ファイルのタイプ、保管場所などの情報が表示されます。また、クリップのタイトルを変更したり、コメントを加えるのにも使われます。

注意 **アルバムからクリップを消去する時の注意：**
消去されるクリップがプロジェクトに使われている場合、そのクリップを消去すると、そのプロジェクトでクリップを使用することができなくなります。

アルバムスクロール

アルバムタブをスクロールします。

クリップスクロール

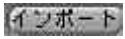
表示されているクリップをスクロールします。

連続再生ボタン



クリックするたびに、クリップが順番に選択され、プレビュー画面で再生します。右の方にある連続再生ボタンをクリックすれば、クリップの左から右へ、上から下への順で再生します。左の方にある連続再生ボタンは、その逆順で再生します。

インポートボタン



他のアプリケーションで作成したマルチメディアクリップをアルバムに加えます。複数のファイルをインポートすることもできます。インポートされたクリップは現在表示中のアルバムに加えられます。インポートボタンをクリックすると、ファイルダイアログが表示されるので、加えたいファイルを選び、「開く」ボタンをクリックしてください。
直接、ファイルをアルバムまでドラッグしたり、カット&ペースト機能を使ってもインポートできます。

参考 **プレビュー画面で録画されたり、開いたファイルは、自動的にワークスペースアルバムに加えられます。同様にビデオ編集パネルで保存されると、サムネイルが自動的にプロジェクトスペースに加えられます。**

E- メールボタン



E-メールボタンはアルバムパネル内のクリップをE-メールの添付ファイルとして送信するためのショートカットです。以下の様に操作します。

1. アルバムパネル内のクリップをクリックして選択します。
「Ctrl」キーを押しながらクリックを使うと複数のファイルを選べます。
選ばれたファイルは同じアルバムに入っていなければなりません。

2．E-メールボタンをクリックします。
マイクロソフトエクスチェンジなどMAPIコンパティブルのE-メールのソフトをシステムにインストールしている場合、E-メールプログラムが使用可能になり、イメージや映像を自動的に新しいメッセージに添付する事が出来ます。
3．メッセージにアドレスを付けて送ります。

参考

1．E-メールボタンはMAPI対応のE-メールプログラムで使用出来ます。MAPIとはマイクロソフトの“Messaging Application Program Interface”（メッセージアプリケーションプログラムインターフェース）の略です。コミュニケーションプログラム間でインフォメーションを交換するのに一般的に使用されています。使用可能のE-メールプログラムが無い時には、E-メールボタンの色が薄灰色になります。E-メールプログラムのマニュアルをチェックして、MAPI対応か調べてください。（E-メールアプリケーションがMAPI対応でないときでも、手作業で起動して添付すれば、そのアプリケーションを使用して、イメージや映像をE-メールで送る事ができます。）

2．理論的には何個でも、どんなサイズのファイルでも送ることができますが、実際には、あまり数多くのファイルや大きすぎるファイルを送ることはすすめません。１メガバイト以上の大きさの添付物を送るのは一般的ではありません。イメージを小さく保つには、JPEGなどの圧縮フォーマットを使ってください。ビデオクリップの形式には「Video E-Mail」を使用してください（「形式の名前ボタン」80ページを参照）。

WEBボタン



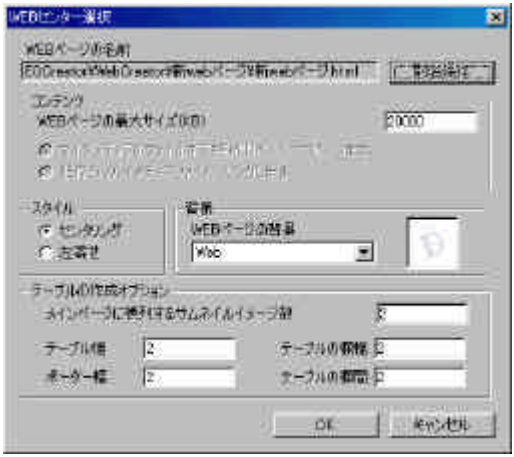
第３章　43ページ

WEBボタンは、アルバムパネルのクリップでインターネットのWEBページを素早く作成するのに使います。選ばれたクリップは適切なフォーマットに変えられて、新しいWEBページに貼り付けられ、選択したハードディスク内のフォルダに保管されます。
操作方法の詳細は第３章「WEBページを作る」43ページを参照してください。

詳細設定ダイアログ（次ページに表示）

■　WEBページの名前
WEBページの場所とファイル名を変更できます。別名保存ボタンをクリックして希望の場所、ファイル名を指示してください。

■　コンテンツ
WEBページの最大サイズを入力します。WEBページはいくらでも大きくできますが、一般的にはWWW（ワールドワイドWEB）にアップロードできるページはあまり大きくありません。大きなWEBサイトはダウンロードするのに長く時間がかかってしまうからです。



オプションボタンで、コピーあるいはリンクを選びます。

コピー：全てのクリップを新しいフォルダにコピーします。

リンク：リンクは選ばれたクリップへのリンクを作成します。

■　スタイル

クリップ貼り付けの位置を、中央あるいは左寄せのいずれかから選びます。

■　背景

WEBページ用に提供されている背景から、１つを選んでください。

■　テーブルオプション

メインページに横列するサムネイルイメージの個数：１行に並べるクリップの数

テーブル幅：クリップを並べるテーブルの横幅

テーブルの欄幅：セル（１つのクリップ）の横幅

ボーダー幅：テーブルの線幅

テーブルの欄間：セルとセルの間の幅

スライドショーボタン

スライドショー

スライドショーボタンはアルバムパネルで選択したクリップ（複数選択可能）をスライドショーとして、全画面表示します。ショーはアルバムに出てくるクリップの順番に再生されます。ファイルは同じアルバムに入ってなければなりません。

参考

1. スナップショットクリップを指定した場合、次のスライドへ移るまでの時間は一定です。また、全てのスライドの移行時間は同じです。

2. オーディオクリップを指定してもスライドショーとして表示されません。

オプションボタン

オプション

アルバムパネルの各種設定を行います。

■　ムービーディレクトリ

ビデオクリップやオーディオクリップを保管するフォルダを指定します。直接パスを指定したり、選択ボタンをクリックして、フォルダを変更できます。初期値は[インストール時の指定フォルダ]\Media\Clipsです。

■　ピクチャーディレクトリ
スナップショットクリップを保管するフォルダを指定します。直接パスを指定したり、選択ボタンをクリックして、フォルダを変更できます。初期値は[インストール時の指定フォルダ]\Media\Pictures です。



参考　**ムービーディレクトリやピクチャーディレクトリは、インストール時に初期値のフォルダ名で自動的に作成されます。**
ハードディスクの増設などで、クリップを保存するフォルダを変更したい場合は、以下の手順で行ってください。

1. **新しく保存したいフォルダをエクスプローラなどで新規作成します。**
2. **ムービーディレクトリやピクチャーディレクトリを、新規作成したフォルダに変更します。**

以降作成するクリップファイルは、すべて新しいフォルダに保存されます。

パネル拡大タブ

このタブをクリックしてドラッグすると、アルバムパネルのウィンドウサイズを変えることができます。

パネル開閉タブ

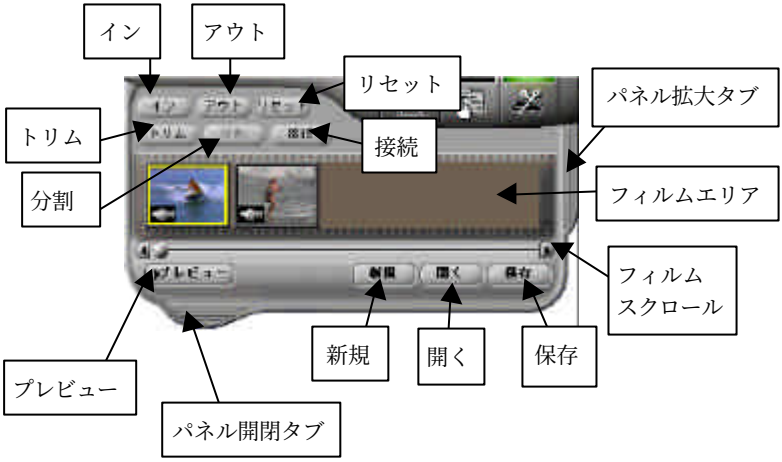
クリックすると、アルバムパネルを閉じます。

切り離しボタン



アルバムパネルは基本パネルからはずして、ディスプレイの別の場所に移すことができます。多くのアルバムファイルを開く時や、パネルを大きくするときに便利です。
切り離しボタンをクリックすると、基本パネルからアルバムパネルが離れます。アルバムパネルを動かすにはパネルのフレームをドラッグしてください。もう１度、切り離しボタンをクリックすると、基本パネルにつながります。

編集パネル（ビデオ）



各機能の詳細は、上図の時計回りに説明します。それらの機能が第３章で詳しく説明されている場合は、機能名の下にそのページを記しています。必要に応じて参照してください。

インボタン



第３章　37ページ

インボタンはビデオクリップを分けたり、カットしたりするときの先頭位置を決めるのに使います。分割ボタンをクリックしたとき、インボタンはクリップの分割位置になります。また、トリムボタンをクリックしたときは、トリミング後の新しいクリップの先頭になります。
インボタンで設定したイン位置はコントロールスライド上の赤印で示されます。



参考　**イン位置が選択されないと、クリップの先頭がデフォルトとして使われます。**

イン位置をセットするには：

1.　イン位置を設定したいフレームで一時停止します。
　　（コントロールバー、１コマ戻る、１コマ進むを、使用してください）。

インボタンをクリックします。

アウトボタン



第３章　37ページ

アウトボタンはビデオクリップを分けたり、カットしたりするときの終了位置を決めるのに使います。分割ボタンをクリックしたとき、アウトボタンはクリップの分割位置になります。また、トリムボタンをクリックしたときは、トリミング後の新しいクリップの最後になります。アウトボタンで設定したアウト位置はコントロールスライド上の青印で示されます。



参考　**アウト位置が選択されないと、クリップのおわりが、デフォルトとして使われます。**

リセットボタン



リセットボタンをクリックすると、設定したイン位置、アウト位置を解除し、ビデオクリップをオリジナルの長さで再生します。リセットは選択されたクリップのみ有効です。

接続ボタン



第３章　38ページ

ビデオ編集パネルで新しい映像を編集し終わり、映像を新しく１つのクリップとして保存する場合は接続ボタンを使います。新しいクリップは自動的にワークスペースへ保管されます。詳しい操作方法は【複数のクリップをつなぎ合わせる】38ページを参照してください。

参考　**接続はエディター内に２つ以上のビデオクリップがある時のみ使用が可能です。**

パネル拡大タブ

このタブをクリックしてドラッグすると、ビデオ編集パネルの横幅を長くすることができます。沢山のクリップをフィルムエリアに表示したいときに便利です。

フィルムエリア



第３章　36ページ

フィルムエリアはビデオ編集パネルの主要な作業エリアです。フィルムエリアは作業中のビデオクリップのサムネイルを表示します。
フィルムエリアにクリップをセットするには、アルバムパネルからフィルムエリア（茶色いと

ころ）まで、クリップをドラッグします。クリップとクリップの間にドラッグすると、クリップをその位置に挿入することができます。
フィルムエリアにセットされているクリップを取り除くには、クリップを選び、キーボードの削除キーを押してください。クリップの右クリックで、削除を選んでもOKです。
クリップはドラッグ＆ドロップで並び順を変えることもできます。

参考

1. ビデオ編集パネルではオーディオクリップやスナップショットクリップは編集できません。

2. フィルムエリアに並べるすべてのビデオクリップは同一フォーマットであるべきです。ビットレート、ウィンドウサイズ、フレームレート、ピクセルタイプ、オーディオフォーマットが同一フォーマットでなければなりません。フォーマットを同一にするには、同じ設定で、MPEG Creatorを使ってクリップを取り出す事です。

フィルムスクロール



フィルムエリアに並んでいるビデオクリップをスクロールします。つまみを左右にドラッグしてください。左右の三角印をクリックすると、フィルムエリアの先頭クリップまたは最終クリップにスクロールします。多くのクリップを含むプロジェクトの編集を行っているときに便利です。

保存ボタン



第３章　40ページ

現在行っている編集作業の内容を、プロジェクトとして保存します。プロジェクト名には好きな名前を入力できます。

開くボタン



以前に保存したプロジェクトを開きます。現在、編集中の内容がある場合はその内容を保存するかどうか、メッセージが表示されます。
開くボタンをクリックすると、アルバムパネル上にプロジェクトアルバムが表示されます。(アルバムパネルが閉じていると、プロジェクトが使用可能な状態で開きます。)
作業をするプロジェクトをダブルクリックするか、フィルムエリアにドラッグします。

新規ボタン



新しい編集プロジェクトをスタートしたいときに使います。フィルムエリアに並んでいるクリップはすべて取り消されます。現在、編集中の内容を保存せずに、このボタンをクリックした場合は、編集中の内容を保存するのか、メッセージが表示されます。

パネル開閉タブ

クリックすると、ビデオ編集パネルを閉じます。現在、編集中の内容を保存せずに、このタブをクリックした場合は、編集中の内容を保存するかどうか、メッセージが表示されます。

プレビューボタン



このボタンをクリックすると、プレビュー画面に編集クリップが再生されます。再生内容はトリミングなど編集変更後のものです。作業がどのように進んでいるのかチェックする事ができます。

参考

1. エディターに2つ以上のビデオクリップがある時のみ、プレビューボタンが使用できます。

2. プレビューでは、ビデオのみ見ることができ、オーディオトラックは再生されません。個々のクリップのオーディオを聞くには、プレビュー画面で再生してください。

分割ボタン



分割ボタンはフィルムエリアのビデオクリップを指定した位置で2つに分ける時に使います。クリップを分けるには：

1. ビデオ編集パネルのクリップを再生し、分けたい場所で一時停止します。（コマ送り、コマ戻しボタンを使用して、正確に分けるポイントのフレームを表示してください。）
2. カットしたいシーンが出たら、アウトボタン（またはインボタン）をクリックします。

新しいクリップは、元のクリップを置き換えるか、新規に作成するか、選ぶことができます。作成されたクリップは、ワークスペースに入ります。

参考

1. 分割はビデオエディターにクリップが1つだけある時のみ使用可能です。

2. 指定するのは、イン位置またはアウト位置のどちらかにしてください（アウトボタンがおすすめ）。イン、アウト位置が両方とも設定されていると、クリップを分ける事ができません。

トリムボタン



第3章　39ページ

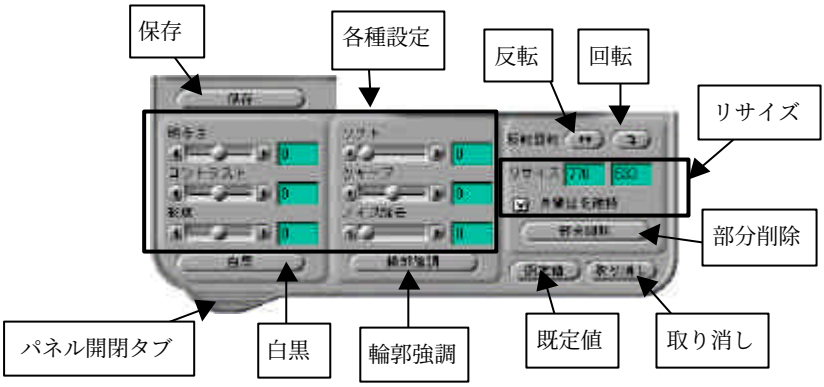
トリムボタンは、クリップの必要な部分を抜き出すために、ビデオクリップの始めと終わりをカットするときに使います。トリムボタンをクリックすると、イン位置からアウト位置まで指

定されている部分のビデオクリップを作成します。作成されたクリップは、ワークスペースに入ります。
詳しい操作方法は【トリミングして新しいクリップを作る】39ページを参照してください。

参考 **イン位置、アウト位置のどちらかが指定されていないときは、一番始めあるいは最後のフレームがデフォルトとして使われます。また、両方とも指定されていないと、トリムボタンは使えません。**

編集パネル（スナップショット）

プレビュー画面にスナップショットクリップが表示されているときに、ビデオ編集パネルを開くと、スナップショット編集パネルが表示されます。



各機能の詳細は、上図の時計回りに説明します。

保存ボタン



現在、プレビュー画面で表示されているイメージをスナップショットとして保存します。保存ボタンをクリックしたときの選択肢は以下の通りです。

- 保存：元のスナップショットクリップに上書きする
- 名前を付けて保存：元のスナップショットクリップとは別クリップとして保存する
- 保存しない：編集したスナップショットを保存しない
- キャンセル：スナップショット編集に戻る

保存したスナップショットはワークスペースに入ります。保存時にタイトルやコメントを付けることもできます。

参考 **編集中のイメージを保存せずに、スナップショット編集パネルを閉じたり、新しいスナップショットをプレビュー画面に表示しようとすると、保存ダイアログが表示されます。**

明るさコントロール



プレビュー画面に表示されているイメージの明るさのレベルを設定します。プレビュー画面を

見ながら設定できます。デフォルト設定はゼロです。設定値は-100から+100の間で、数値が大きいほど明るくなります。左右の三角キーは10段階ごとに動きます。設定ウィンドウに直接、数値を入力することもできます。

コントラストコントロール



プレビュー画面に表示されているイメージのコントラスト（めりはり）のレベルを設定します。プレビュー画面を見ながら設定できます。デフォルト設定はゼロです。設定値は-100から+100の間で、数値が大きいほどめりはりがきいた状態になります。左右の三角キーは10段階ごとに動きます。設定ウィンドウに直接、数値を入力することもできます。

彩度コントロール



プレビュー画面に表示されているイメージの彩度（色の濃淡）のレベルを設定します。プレビュー画面を見ながら設定できます。デフォルト設定はゼロです。設定値は-100から+100の間で、数値が大きいほど濃淡がきつくなります。左右の三角キーは10段階ごとに動きます。設定ウィンドウに直接、数値を入力することもできます。

ソフトコントロール



プレビュー画面に表示されているイメージの柔らかさのレベルを設定します。プレビュー画面を見ながら設定できます。デフォルト設定はゼロです。設定値は0から+9の間で、数値が大きいほど柔らかいイメージになります。左右の三角キーは１段階ごとに動きます。設定ウィンドウに直接、数値を入力することもできます。

シャープコントロール



プレビュー画面に表示されているイメージのシャープさのレベルを設定します。プレビュー画面を見ながら設定できます。デフォルト設定はゼロです。設定値は-100から+100の間で、数値が大きいほどシャープなイメージになります。左右の三角キーは10段階ごとに動きます。設定ウィンドウに直接、数値を入力することもできます。

ノイズ除去コントロール



プレビュー画面に表示されているイメージの映像ノイズを除去します。プレビュー画面を見ながら設定できます。デフォルト設定はゼロです。設定値は0から+9の間で、数値が大きいほどノイズ除去します。左右の三角キーは１段階ごとで動きます。設定ウィンドウに直接、数値を入力することもできます。

反転ボタン



編集中のイメージが左右逆となり、鏡に写った状態になります。

回転ボタン



クリックするたびに、編集中のイメージが、時計回りに90度回転します。

リサイズ



イメージの幅と高さを入力（単位：ピクセル）し、高さ欄（右側）で「TAB」キーを押すと、編集中のイメージのサイズを変更できます。「外観比を維持」がチェックされているときは、幅と高さのどちらかを入力すると、自動的にもう一方が計算されます（縦横比は元のクリップサイズから算出）。「外観比を維持」がチェックされていないときは、幅・高さともに自由に設定できますが、何回も設定し直すとイメージが正しく表示されない場合があります。

部分削除ボタン



編集中のイメージから、任意の部分を選択し、その部分を取り出します。

イメージを部分削除するには：

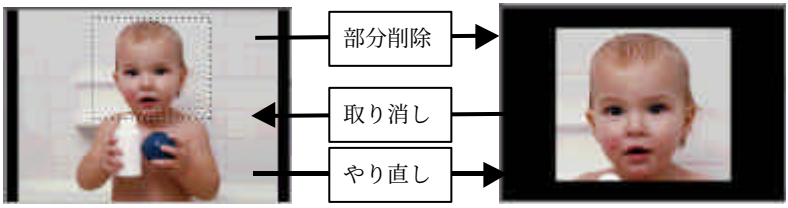
1. プレビュー画面で、取り出したい部分をドラッグして指定します（ボックス型）。
   別なエリアをクリックしてドラッグすると、選択したエリアを変更できます。
2. 部分削除ボタンをクリックします。

選択したエリア以外のイメージは削除されます。

取り消し（やり直し）ボタン



取り消しボタンをクリックすると、１つ前の編集状態に戻り、ボタンの名称が「やり直し」になります。やり直しボタンをクリックすると、先ほどの編集状態に戻り、ボタンの名称が「取り消し」に戻ります。

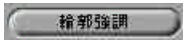


既定値ボタン



編集作業をすべて取り消し、最後に保存した状態（まだ１度も保存されていないときは元のクリップの状態）に戻します。編集作業をやり直すときに便利です。

輪郭強調ボタン



クリックするたびに、コントラストをきつくし、イメージの輪郭を強調します。イメージを明るくしたり、より密度の高いものにします。

白黒ボタン



編集中のイメージをモノクロ（グレイスケール）にします。

パネル開閉タブ

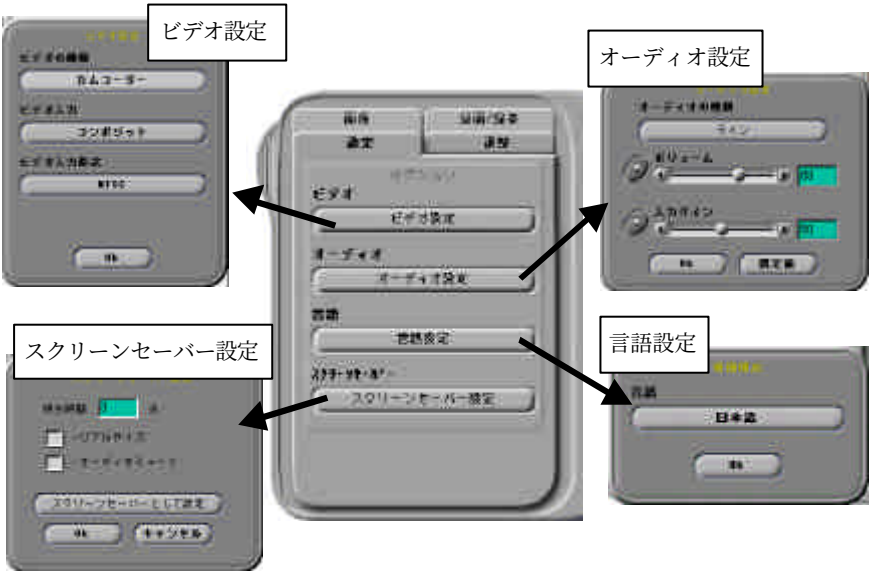
スナップショット編集パネルを閉じます。編集中のイメージがある場合は、保存ダイアログが表示されます。

オプションパネル

オプションパネルには次の４つのタブがあります。
ここでは、各タブごとに説明します。



《設定タブ》



ビデオ設定ボタン

■ビデオの種類
接続した映像機器を選びます。

選択肢	意味
PCカメラ	CCDカメラを接続した場合
カムコーダー	ビデオカメラを接続した場合

選択肢	意味
TV,DVD,LD	テレビ、DVD、レーザーディスクを接続した場合
VCR	ビデオデッキを接続した場合

参考 **PCカメラを選択した場合、オーディオの種類のデフォルト値は、マイクになります。**

■ビデオ入力

USB-MPGの映像入力端子に接続した種類を選びます。１つの入力コネクタだけを接続した場合、MPEG Creatorは自動的に種類を判別するので、この設定に対して考慮する必要はありません。

選択肢	意味
コンポジット	黄色いコネクタに接続した場合
Ｓ－ビデオ	Ｓ端子に接続した場合
コンポジット２	（MPEG Creatorでは使用しません。）

参考 **ビデオ入力を切り替えるときは、プレビュー画面に何も表示されていない状態で行ってください。プレビュー画面に表示中に切り替えたときは、いったん、プレビュー表示を終了してから、再度、表示してください。**

■ビデオ入力形式

接続した映像機器のビデオ形式を選びます。

選択肢	意味
NTSC	アメリカ、カナダ、日本で使われている形式
PAL-M	多くのヨーロッパ諸国、オーストラリアなどで使われている形式

オーディオ設定ボタン

■オーディオの種類

USB-MPGの音声入力端子に接続した種類を選びます。

選択肢	意味
マイク	MIC IN端子に接続した場合
ライン	AUDIO IN端子に接続した場合

■ボリューム

出力音量のレベルを指定します。バーの左に小さなスピーカーアイコンがあります。このアイコンでボリュームの消音をON/OFFできます。消音になっているときは、スピーカーアイコンに×印がつきます。

選択肢	意味
レベル	バー上のつまみを移動すると、MPEG Creatorのボリュームボタンで設定するのと同じ様に、音量の調節ができます。バーを使わず、直接、ボリューム値を(0-100%)を入力することもできます。

■入力ゲイン
録音のサウンド入力をコントロールします。バーの左に小さなスピーカーアイコンがあります。このアイコンで入力ゲインの消音をON/OFFできます。消音になっているときは、スピーカーアイコンに×印がつきます。

選択肢	意味
レベル	レベルはパーセント(0-100%)で示されます。入力ゲインが低く設定されすぎると、音が聞こえなくなります。高すぎると、音割れをおこします。音割れなくサウンドを聞けるように、バーのつまみを調節してください。バーの右端に向かって、左から半分または１／３位、進んだ所につまみを合わせ、そこから調節を始めると良いでしょう。

参考 **ボリュームと入力ゲインの設定は、ビデオ入力オプションでPCカメラが選ばれている時は、使用できません（ビデオカメラから録画するときのフィードバックを防ぐためです）。**

■既定値ボタン
設定した値を既定値に戻します。

言語設定ボタン

MPEG Creatorで使用する言語を選びます。

選択肢	意味
英語（U.S.）	ボタンなどの名称が英語になります。
日本語	ボタンなどの名称が日本語になります。（既定値）

スクリーンセーバー設定ボタン

■待ち時間
スクリーンセーバーが起動するまでの時間を設定します。

■リアルサイズ

選択肢	意味
チェックON	指定されたクリップを実際のサイズで表示します。

選択肢	意味
チェックOFF	指定されたクリップをフルスクリーンサイズで表示します。

■オーディオミュート

選択肢	意味
チェックON	音声は再生しません。
チェックOFF	音声も映像と一緒に再生します。

■スクリーンセーバーとして設定ボタン
クリックすると、MPEG Creatorスクリーンセーバーを Windows のスクリーンセーバーとして設定します。

《調整タブ》



一般的に、MPEG Creatorのビデオ画像はプログラムをスタートさせた時から鮮明のはずです。しかし、簡単にスクリーン上の画像写りを変えたり、向上させたりする事もできます。
調整パネルでは、接続した映像機器から映像を取り込むときの、明るさ、コントラスト、彩度、色合い、シャープネス、水平取込開始位置、垂直取込開始位置の７つの調整をコントロールできます。これらは、TVやディスプレイについている調整機能と同じ様に使うことが出来ます。バーのつまみをドラッグして動かしてください。プレビュー画面で確認しながら調整することができます。それぞれのバーには、数値を示すウィンドウがついています。ここに、数値を直接入力することもできます（設定値の範囲内）。
以下に、それぞれの調整の詳細を示します。

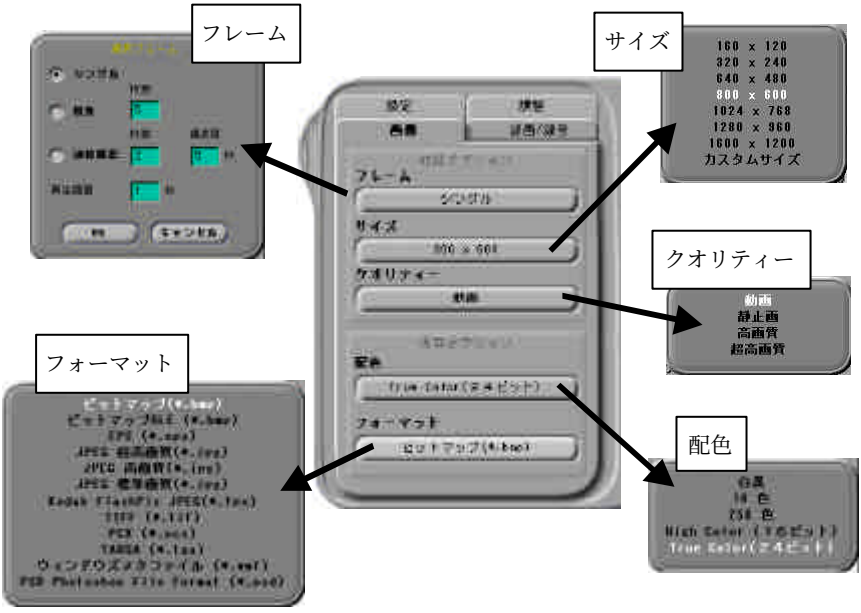
調整値	摘要
明るさ	明るさのレベルを設定します。既定値設定は128です。0から+255の間で設定できます。
コントラスト	コントラストレベルを設定します。既定値設定は71です。0から+127の間で設定できます。
彩度	濃淡レベルを設定します。既定値設定は64です。0から+127の間で設定できます。

調整値	摘要
色合い	色合いレベルを設定します。既定値設定は0です。-128から+127の間で設定できます。
シャープネス	シャープレベルを設定します。既定値設定は1です。0から+3の間で設定できます。
水平取込開始位置	プレビュー画面での、取込映像の水平方向の開始位置の設定をします。既定値設定は、10です。0から+20の間で設定できます。
垂直取込開始位置	プレビュー画面での、取込映像の垂直方向の開始位置の設定をします。既定値設定は14です。0から+16の間で設定できます。

■既定値ボタン
設定した値を既定値に戻します。

《画像タブ》

画像タブは、スナップショット（静止画像）の設定を行います。



フレームボタン

スナップショットボタンをクリックしたときのフレームの取り出し方などを選びます。

選択肢	意味
シングル	１フレームだけを取り出します。
複数	フレームを指定した枚数だけ取り出します。取り出す枚数を入力してください。
連続撮影	フレームを一定時間、間隔をあけて取り出します。取り出す枚数と、時間の間隔を入力してください。
再生間隔	スライドショーの再生間隔を指定します。

サイズボタン

スナップショットボタンをクリックしたときに、取り出すフレームのサイズを選びます。
フレームサイズとは、取り出したい静止画像のサイズのことで、単位はピクセルです。ピクセルとは、ディスプレイ上の小さな点の事で、ディスプレイサイズによって点の数も違って来ます。例えば、一般的な１５インチのコンピュータモニターは、横800ピクセル×縦600ピクセルです（これは一般規格です）。これは、800x600と、省略して表記されます。MPEG Creatorでは、160x120から1600x1200までの７つの設定サイズがあり、これらサイズは4:3の縦横比に合わせてあります（一般的なディスプレイやテレビと同じです）。つまり、画像は、横４ピクセルにつき、３ピクセルの高さがあるということです。この4:3のレートはビデオ画像のスタンダードです。
カスタムサイズを選んだときはピクセル単位で自由にサイズを設定できますが、4:3以外のレートを使用したい場合、「縦横比固定」オプションをOFFにしてください。
既定値サイズは、320x240です。

クオリティーボタン

取り出す映像機器の画像種類を選びます。

選択肢	意味
動画	動画像を含んだ映像の場合に選びます。多くのビデオが動画像を含んでいるため、動画が既定値になります。
静止画、高画質、超高画質	静止画の映像の場合は、３つのうち、いずれかを選びます。三脚に据え付けられたカメラから花をフォーカスしたものなど動きのない画面から画像を取り出す時には、超高画質を選んでください。

配色ボタン

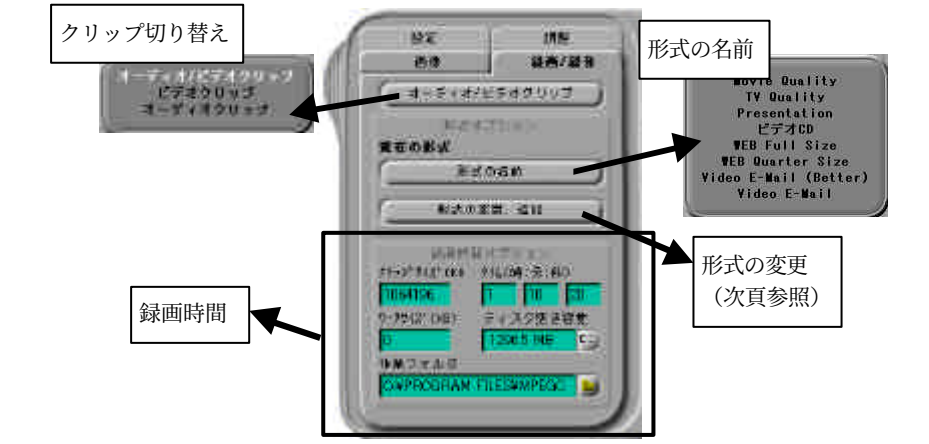
保存するフレームの色数を選びます。
多くの色が使われると、より静止画の質が良くなります。もちろん、多くの色を使うと、イメージファイルのサイズが大きくなります。保存イメージをどのように加工するかによって色数の選択も変わってきます。例えば、保存したイメージを、白黒プリンタで印刷される文書に貼り付けるのなら、このプリンタの印刷能力のリミットである256色で十分でしょう。
選択肢の下になるほど、ファイルの容量は大きくなりますが、画質は良くなります。

選択肢	意味
白黒	白黒で保存します。
１６色	１６色で保存します。
２５６色	２５６色で保存します。
High Color（１６ビット）	３６万色で保存します。
True Color（２４ビット）	１６７０万色で保存します。

フォーマットボタン

保存するフレームの形式を選びます。保存したイメージを何に使うかによって、保存形式を決めるとよいでしょう。JPEGイメージには、JPEG超高画質、JPEG高画質、 JPEG標準画質の３つの品質レベルがあります。
イメージの質が高く設定されると、イメージファイルサイズはより大きくなります。

《録画/ 録音タブ》



クリップ切り替えボタン

録画タイプを設定します。

選択肢	意味
オーディオ/ビデオクリップ	映像および音声の録音録画をし、MPEG映像を作成する場合
ビデオクリップ	無音声のMPEG映像用に、映像のみ録画する場合
オーディオクリップ	Wave(*.wav)またはMPEG (*.mpa)ファイルとして保存される音声のみを録音する場合

形式の名前ボタン

使用している形式名を表示します。クリックすると設定可能な形式名を選択できます。
形式は自由に作成することもできますが、MPEG Creatorではあらかじめ、以下のような形式が保存されています。目的に応じて選んでください。

■ビデオクリップとオーディオ・ビデオクリップ選択時
データレートが少なくなるほど、画質は落ちますが、ファイル容量は少なくなります。

選択肢	主な設定内容
Movie Quality	イメージサイズ：標準(SIF)。ピクセルタイプ：長方形 データレート：330Kバイト/秒
TV Quality	イメージサイズ：標準(SIF)。ピクセルタイプ：長方形 データレート：252Kバイト/秒
Presentation	イメージサイズ：標準(SIF)。ピクセルタイプ：四角形 データレート：252Kバイト/秒
ビデオCD	イメージサイズ：標準(SIF)。ピクセルタイプ：長方形 データレート：201Kバイト/秒
WEB Full Size	イメージサイズ：標準(SIF)。ピクセルタイプ：長方形 データレート：174Kバイト/秒
WEB Quarter Size	イメージサイズ：四分割(QSIF)。ピクセルタイプ：長方形 データレート：101Kバイト/秒
Video E-Mail(Better)	イメージサイズ：四分割(QSIF)。ピクセルタイプ：四角形 データレート：56Kバイト/秒
Video E-Mail	イメージサイズ：四分割(QSIF)。ピクセルタイプ：四角形 データレート：28Kバイト/秒

■オーディオクリップ選択時
同じMPEG形式であれば、データレートが少なくなるほど、音質は落ちますが、ファイル容量は少なくなります。

選択肢	主な設定内容
CD Quality(MPEG)	フォーマット：MPEG。オーディオチャネル：ステレオ データレート：46Kバイト/秒
FM Quality(MPEG)	フォーマット：MPEG。オーディオチャネル：ステレオ データレート：31Kバイト/秒
AM Quality(MPEG)	フォーマット：MPEG。オーディオチャネル：モノラル データレート：15Kバイト/秒
Audio CD(WAVE)	フォーマット：WAVE。オーディオチャネル：ステレオ データレート：172Kバイト/秒

形式の変更、追加ボタン



新しい形式を作りたいとき、既存の形式の設定を変更したい場合に使います。
このダイアログは、フレームをドラッグして動かすことができます。

■形式名
使用可能な形式名のプルダウンリストです。新しい形式を作成する場合は、形式名を入力してください。保存ボタンをクリックすると、表示されている形式を保存します。削除ボタンをクリックすると、選択した形式を削除します。既定値ボタンをクリックすると既存の形式設定を元の値に戻します。

■イメージサイズ
標準サイズはSIF形式を、四分割サイズはQSIF形式を示します。以下の表に形式の違いを説明しています。使用するサイズを選んでください。

SIF（標準サイズ）	QSIF（四分割サイズ）
352 x 240　NTSC	176 x 120　NTSC
352 x 288　PAL	176 x 144　PAL
320 x 240　NTSC，四角形	160 x 120　NTSC，四角形

■ピクセルタイプ
映像は、四角形（正方形）あるいは長方形のピクセルで取り出されます。取り出した後、どのように使用するかで、ピクセルタイプの選び方が決まってきます。
以下のルールを参考にしてください。
コンピュータで映像を再生するのみでしたら（デスクトッププレゼンテーションの様に）、四角形ピクセルを使ってください。それ以外の場合は、長方形ピクセルを使ってください。（特にビデオテープに映像を取り出したい場合など）

■ビデオビットレート
MPEG映像がどのくらいの情報（ビット/秒）を使用できるかを表示します。
一般的に、ビットレートが高いと、映像の質も高いです（ファイルもその分大きくなります）。しかし、ビットレートを高くするには、作業スピードの速さが要求されます。スピードの遅いコンピュータでは低いビットレートを使用した方が良いでしょう。

まず、オプションボタンから、レートの種類を選んでください。
「超低」オプションは、四分割サイズ録画のみで使用可能です。ビットレートを変えるとデータレートも変わります。データレートは直接変えることが出来ません。
選択オプションとビットレートおよびデータレートの関係は下表の通りです。

レートの種類	標準サイズ		四分割サイズ	
	ビットレート	データレート	ビットレート	データレート
超低	—	—	56Kビット/秒	14Kバイト/秒
低	1.0Mビット/秒	145Kバイト/秒	200Kビット/秒	47Kバイト/秒
標準	1.5Mビット/秒	206Kバイト/秒	300Kビット/秒	60Kバイト/秒
高	2.0Mビット/秒	389Kバイト/秒	500Kビット/秒	84Kバイト/秒

※データレートは音声のビットレートによっても変わります（ここでは既定値を使用）。

数値を直接入力することもできます。例えば、2.0Mビット/秒だったら、2000000と入力してください。ビデオCDフォーマットのビットレートは1.15Mビット/秒に設定されています。基本的に使用可能な最大のビットレートを使ってください。少し試験的に試してみるのも良いでしょう。フォーマットを変えることは難しくありません。最適なレートを使用し、作業の最終目的を考慮するようにしてください。例えば、インターネットで送るつもりの映像は、送信スピードを速めるため、できるだけ小さなサイズで作成するべきです。

注意 **VIDEO OUT端子に接続したビデオ機器にMPEGファイルの映像を出力する場合は、MPEGファイルのビデオビットレートを2Mビット/秒以下にしてください。**

■録画中にプレビューする
このオプションを選ぶと、録画中、プレビュー画面に取り込んだ映像を表示します。普通、こ

のオプションはチェックしておきます。でも録画中になにか問題が起きるようなら、このオプションをチェックしないことで、改善される可能性があります。

■オーディオフォーマット
MPEG Creatorは、2つのオーディオファイルフォーマットでオーディオのみの録音ができます：WAVE(*.WAV)とMPEG-1レイヤー2(*.MPA)です。どちらのフォーマットを使用するかを選んでください。

■音声を処理
リアルタイムに圧縮録画されるに従い、オーディオトラックを圧縮します。ポストプロセスはオーディオが取り出された後、そのオーディオを圧縮します。
オーディオ圧縮は録画中、CPUのパワーを使用するので、リアルタイム圧縮はよりパワフルなコンピュータを必要とします。だいたい166MHz以上のプロセッサーパワーを持ったパソコンならリアルタイム圧縮が使用出来ます。リアルタイムを使用していて問題があったら、ポストプロセスを使ってみてください。（ポストプロセスは録画に必要な処理時間が長くなります）

■オーディオチャネル
ステレオあるいはモノラルサウンドのどちらかを選んでください。
ステレオ録音には２つのチャンネルがあり（左右）、モノラルは１つのチャンネルになります。作業する映像あるいはオーディオクリップによってサウンドタイプが変わってきます。ビデオソースからどのタイプのサウンドが出ているか考慮してください。モノラルサウンドのみの映像ならば、ステレオ録音する意味がありません。ステレオサウンドの映像ならば、モノラルを選択すると両方のチャンネルからのサウンドをミックスして１つのモノラルチャンネルに入力します。また、ステレオサウンドを聞くにはステレオスピーカーあるいはヘッドフォンが必要です。一般的にステレオサウンドの方が良い音がします。

■サンプルレート
既定値のサンプルレートはCDクオリティー（44,100ビット/秒）です。高いサンプルレートは、よりよい品質のサウンドを再生しますが、より大きいファイル容量を必要とします。

■オーディオビットレート
既定値のオーディオビットレートは224,000ビット/秒です。高いビットレートはよりよい質のサウンドを再生しますが、より大きいファイル容量を必要とします。

■データレート
データレートは映像を再生するのに必要なデータ量をKバイト/秒で表したもので、ユーザーの参考用としてのみ使われます。新しいデータレートを入力する事はできません。
データレートは他の設定が変わることによって、自動的に設定されます。データレートを映像の秒数で掛けたものが、使用するディスクスペースの大きさです（逆に、使用可能なディスク

スペースをデータレートで割ると何秒間録画ができるかが、分かります。）

録画時間オプション

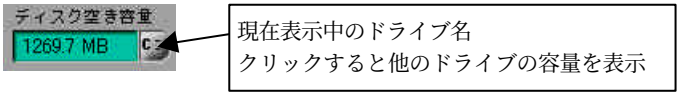
■クリップサイズ
指定したサイズ以上のファイルになると、自動的に録画を終了します。（このファイルサイズで録画できる時間を算出し、タイム欄に表示します。）
※1ファイルの最大容量は、OSの制限上4Gバイトまでとなります。

■タイム
指定した時間以上になると、自動的に録画を終了します。（この時間で録画できるファイルサイズを算出し、クリップサイズ欄に表示します。）

参考 **タイムは「99」と入力すると、ディスクの空き容量に対し、自動的に最大録画時間が設定されます。但し、1ファイルは4Gバイトまでとなります。**

■作業サイズ
クリップを取り出すのにどのくらいのディスクスペースが必要か表示します。音声の処理オプションで、「リアルタイム」を選んだ場合、作業サイズはクリップサイズと同じになります。「ポストプロセス」を選んだ場合、ワークサイズはクリップサイズの約２倍ほどになります。

■ディスク空き容量
ここには、コンピュータ内の使用可能ドライブのディスク空き容量がドライブ別に表示されます。プルダウンメニューで、他のドライブの空き容量を確認することもできます。
（ここでは各ドライブの空き容量を確認するだけです。作業ドライブを変更するときには、下記「作業フォルダ」で行ってください。）



■作業フォルダ
作業フォルダは、MPEG Creatorが一時的なワークファイルを保管する場所です。十分な空き容量のあるドライブのフォルダを選択してください。フォルダアイコンをクリックし、他の場所を選ぶこともできます。初期値は、[インストール時の指定フォルダ]\Media\Clipsです。
※キャプチャしたファイルの保存先ではありません。キャプチャファイルの保存先はアルバムパネル上の[オプション]ボタンで指定します。（62ページ参照）



付録

付録では、以下のことを説明します。必要に応じてお読みください。

【困ったときには】（86ページ）

うまく取り付けできない、思ったように動作しないときなどにご参照ください。なお、ここにはMPEG Creatorの操作上の疑問は書いてありません。操作の疑問は第３章、第４章を参照してください。

↓

【ハードウェア仕様】（90ページ）

USB-MPGの仕様を説明しています。

↓

【用語解説】（91ページ）

USB-MPGを使用する上でよく使う用語について、簡単にまとめてあります。

困ったときには

● USB-MPG取り付け時のトラブル

パソコンのUSBポートに、USB-MPGのUSBコネクタが入らない

原因
対処

コネクタの向きが逆である。
コネクタには向きがあります。無理に入れようとしないで、コネクタの向きを確認してから、差しこんでください。

● 動作確認中のトラブル

USBケーブルをパソコンに差し込み電源を入れたが、「新しいハードウェアの追加」画面が表示されない

原因
対処

USB-MPGの電源が入っていない。
USB-MPGの電源を入れないと、「新しいハードウェアの追加」画面は表示されません。電源を入れてください。

原因
対処

誤認識されている。
[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]をクリックし、[デバイスマネージャ]アイコンをダブルクリックしてください。
一覧で[その他のデバイス]の下に[不明なデバイス]が表示されている場合は、[不明なデバイス]を削除してください。その後で再起動してください。

デバイスマネージャ画面で「USB-MPG」が表示されない、または、先頭に「！」マークが付いている

原因
対処

USBケーブルの接続が正しくない。
パソコンにUSB-MPGのUSBケーブルが正しく接続されているか、確認してください。

「デバイスが検知できず」または「ビデオソースが検知できません」と表示される

原因
対処
ケーブルの接続が正しくない。
USB-MPGは、前面がイン端子（映像機器と接続）で、背面がアウト端子（パソコンと接続）になっています。前面と背面をもう１度、確認してください。
また、必要なケーブルがすべて接続されているかどうかを確認してください。

原因
対処
接続した映像機器が再生状態になっていない
ビデオカメラ、ビデオデッキなどは再生状態にしないと、ビデオ信号を送りません。映像機器の電源はもちろん、再生状態かどうかを確認してください。

プレビュー画面に正しく映像が表示されない

原因
対処
ケーブルの接続が正しくない。
USB-MPGは、前面がイン端子（映像機器と接続）で、背面がアウト端子（パソコンと接続）になっています。前面と背面をもう１度、確認してください。
また、必要なケーブルがすべて接続されているかどうかを確認してください。

原因
対処
Ｓビデオ対応でないのに、Ｓビデオケーブルを接続した。
黄色いコネクタのビデオケーブルをご使用ください。

原因
対処
ビデオソースの設定などが正しくない。
第４章[設定]タブ71ページを参照して、接続と設定が一致しているか、確認してください。

音が聞こえない

原因
対処
ケーブルの接続が正しくない。
オーディオケーブルは赤コネクタと白コネクタがあります。赤コネクタは赤色の端子に入っているか、確認してください。USB-MPGの前面と背面が正しいかどうかも確認してください。

原因
対処
スピーカーに接続されていない
本製品にはスピーカーおよびサウンドカードからスピーカーに接続するケーブルは添付しておりません。必要ならば、別途ご用意ください。

原因
対処
ボリューム設定が小さい、または、消音（ミュート）になっている
Windowsのボリューム設定を確認してください。画面右下にあるタスクバーのスピーカーアイコンをクリックすると設定できます。

原因 音声入力の選択（ライン/マイク）が違う
対処 USB-MPGのMIC INに接続したときは、マイクに向かって話しかけないと音声は聞こえません。AUDIO INに接続したときは、ラインを選んでください。

原因 音声が録音されていない映像である
対処 再生されている映像に音声が録音されているか、確認してください。

● MPEG Creator実行中のトラブル

プレビュー画面に映像が表示されない場合は、いったん、MPEG Creatorを終了し、セットアップウィザードを起動して、チェックを行ってください。ここでは、セットアップウィザード以外のトラブルを説明します。

音が聞こえない

原因 ボリュームが小さい、または消音になっている。
対処 基本パネルの右下にあるボリュームを上の方にスライドして、ボリュームを上げてください。また、ボリュームの中央にあるスピーカーアイコンに×マークがついているときは、もう１度、スピーカーアイコンをクリックして×マークを消してください。

アルバムパネルで表示されるクリップに「×」印がついている

原因 そのクリップが保存されているCD-ROMがセットされていない
対処 CD-ROMをセットしてから、アルバムパネルを開いてください。よく使うクリップならハードディスクにコピーした後、インポートすればCD-ROMが不要になります。

原因 クリップファイル自体が、すでに削除されている
対処 「×」印のついているクリップを選び、削除キーを押し、アルバムパネルからも削除しておいてください。

ビデオ編集しようと思っても、フィルムエリアにクリップがドラッグできない（最初のクリップに矛盾している、とエラー表示される）

原因 クリップの各種設定（形式、フレームサイズ、データレート、ピクセルタイプなど）が違っている

対処 それらの設定が全く同じクリップだけがフィルムエリアに並べることができます。同じ条件で取り込みを行ったクリップを選んでください。

プレビュー画面に表示される映像と音声にズレが生じる

原因 ビデオソースの信号が不安定になっている

対処 ビデオテープを他のものに変えたり、録画モードが３倍の場合は標準のテープをご使用ください。

● その他のトラブル

パソコンを起動したままにしておいたら、画面が真っ黒になっていた

原因 MPEG Creatorスクリーンセーバーを指定してあるのに、スクリーンセーバーアルバムに１つもクリップが入っていない

対処 何かキーを押してください。画面が表示されます。スクリーンセーバーアルバムにクリップを設定するか、Windowsの画面プロパティでスクリーンセーバーの指定を変えてください（39ページ参照）

原因 MPEG Creatorスクリーンセーバーを指定してあるのに、USB-MPGの電源が入っていない

対処 何かキーを押しても、画面が表示されないときは、「Ctrl」+「Alt」+「DEL」キーを押してパソコンを再起動してください。その後、USB-MPGの電源を入れるか、Windowsの画面プロパティでスクリーンセーバーの指定を変えてください。

ハードウェア仕様

型式番号	USB-MPG
ビデオフォーマット	MPEG-1
解像度（SIF）	352×240　または　320×240　30フレーム/秒 352×288　または　320×288　25フレーム/秒
解像度（QSIF）	176×120　または　160×120　30フレーム/秒 176×144　または　160×144　25フレーム/秒
ビデオビットレート	0.056～3.0Mバイト/秒
ビデオ入力	コンポジットビデオ、Sビデオ
ビデオ出力	コンポジットビデオ、Sビデオ
オーディオ	サンプリング周波数：32kHz、44.1kHzまたは48kHz モード：モノラル、ステレオ ライン入出力：RCAジャック マイク入力：モノラルミニジャック
使用温度範囲	+5℃～+40℃
使用湿度範囲	10%～80%（結露なきこと）
電源電圧	DC +5V（-5%～+10%）
消費電流	1.50A（MAX）
外形寸法	34mm(W)×168mm(H)×97mm(L) （縦置き用アダプタ含まず）
質量	約460g

本製品には、以下のいずれかのACアダプタが同梱されています。

MULTIPOWER社製 ACアダプタ	入力：AC100～240V(50/60Hz) 20～30VA 出力：DC 5V±5%　最大約2.0A
D.V.E.社製 ACアダプタ	入力：AC100～120V(50/60Hz) 40VA 出力：DC 5V±5%　最大約2.8A

用語解説

USB（ﾕｰｴｽﾋﾞｰ）（Universal Serial Bus）

パソコンと周辺機器を接続する規格の１つ。パソコンと電話回線の接続性向上、接続のしやすさ、増設のしやすさなどを主な目的として1995年に公開された。

- コネクタ形状の一元化により、周辺機器のインターフェイスが統一される。
- デスクトップパソコンでもノートパソコンでも使用できる。
- Hot Plug対応でパソコン起動中でも抜き差しできる。
- USBポートから電源供給が可能である。
- 複数のIRQを使用しないので機器間の競合が少なくなる。

などの特長を持つ。

転送速度は、高速用に12Mbps（シールド付きケーブルで最長５ｍまで）と、低速用に1.5Mpbsの２種類ある。本製品は1.5Mbpsタイプ。

MPEG(ｴﾑﾍﾟｸﾞ)(Moving Picture (Coding) Experts Group)

ISO（国際標準化機構）とIEC（国際電気標準会議）との合同組織名。

または、それの動画・音声圧縮技術のこと。動画の動きの方向をデータにすることで圧縮する。

MPEGの規格には、CD-ROMへの応用を考えた転送速度1.5MbpsのMPEG-1と、AV機器や放送を考えた転送速度5～10MbpsのMPEG-2がある。本製品はMPEG-1対応。

SIF(ｼﾌ)(Source Input Format)

MPEGの標準的な動画フォーマット。ソース入力フォーマット。352×240画素（30フレーム／秒）などで録画される。

QSIF(ｷｭｰｼﾌ)(Quarter Source Input Format)

MPEGの標準的な動画フォーマット。SIFの1/4のサイズである176×120画素（30フレーム／秒）などで録画される。

NTSC方式 (National Television System Committee standard)

日本と米国で使われるテレビやＶＴＲなどのコンポジット信号の規格。ヨーロッパではPAL-MやSECAM（セカム）規格が一般的。走査線525本で毎秒約30フレームの映像を送る。一方、PAL-M規格では走査線625本で毎秒25フレームの映像を送るので、NTSC方式で録画したビデオテープは、PAL-M形式のビデオデッキでは再生できないなど、双方には互換性がない。本製品はNTSC方式、PAL-M方式の両方に対応しているので、どちらの方式の映像機器からでも、映像を取り込むことができる。

サポートセンターへのお問い合わせ

■お知らせいただく事項

1.お客様の住所・氏名・郵便番号・連絡先の電話番号およびFAX番号
2.ご使用の弊社製品名。
3.ご使用のサポートソフトのバージョン。
4.ご使用のパソコン本体と周辺機器の型番。
5.ご使用のOSとアプリケーションの名称、バージョンおよびメーカー名。
6.現在の状態(どのようなときに、どうなり、今はどうなっているか。画面の状態やエラーメッセージ等の内容)。

■オンライン

ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ　　http://www.iodata.co.jp/support/

■郵便

〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地 ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器
サポートセンター「USB-MPG」係　宛

■電話

電話番号　　本社　　076-260-3646
東京　　03-3254-1036
受け付け時間　　9:30～19:00　月～金曜日(祝祭日を除く)

■FAX

FAX番号　　本社　　076-260-3360
東京　　03-3254-9055
宛先　　株式会社アイ・オー・データ機器
サポートセンター「USB-MPG」係　宛

本製品に関するお問い合わせはサポートセンターのみで行っています。予めご了承ください。

保証について

■保証期間

・保証期間は、お買い上げの日より１年間です。保証期間を過ぎたものや、保証書に販売店印とお買い上げ日の記述のないものは、有償修理となります。お送りいただいた製品を検査後、有償となる場合のみ往復ハガキにて修理金額をご案内致しますので、修理するか否かをご検討の上、往復ハガキにご記入いただきご返送ください。また、修理を受ける場合には保証書が必要になりますので、大切に保管してください。

・弊社が販売終了を決定してから、一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。

詳細は、ハードウェア保証書をご覧ください。

■保証範囲

次のような場合は、保証の責任を負いかねます。予めご了承ください。

・本製品の使用によって生じた、データの消失および破損。

・本製品の使用によって生じた、いかなる結果やその他の異常。

・弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障。

サポートソフトのバージョンアップ

入手方法は以下の通りです。

■オンライン

ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ　　http://www.iodata.co.jp/　→「サポート・ライブラリ」

■バージョンアップ窓口からの郵送

下記の窓口までお問い合わせください。（送料および手数料はお客様負担）

住所　　〒920-8513　石川県金沢市桜田町2丁目84番地
ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器
「USB-MPG」バージョンアップ係　宛
電話番号　　076-260-3663
受付時間　　9:30～12:00　13:00～17:00　月～金曜日(祝祭日を除く)

ご注意

●オンラインによるダウンロードはお客様の責任のもとで行ってください。

●添付ソフトウェアの中には、当サービス対象外のソフトウェアもあります。

修理について

弊社製品の修理については、以下の事項をご確認のうえ、販売店へご依頼いただくか、または下記修理品送付先までお送りくださいますようお願い致します。

- 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。
- 修理品にはご使用の環境や現在の状態（『サポートセンターへのお問い合わせ』の「お知らせいただく事項」）をお書き添えください。
- 保証期間中は無償で修理いたします。ただし、次の場合は有償となります。
  ◇保証書がない場合
  ◇保証書の所定事項が未記入の場合
  ◇誤った操作方法や、お買い上げ後の輸送、落下、取り付け場所の移設による破損、故障の場合
  ◇落雷等の事故による破損の場合
  ◇本製品を改造した場合
- 保証期間後は有償で修理いたします。
  製品によっては主要部品がユニット化（一体化）されている場合があります。これらの製品で故障が主要部品におよんでいた場合、各ユニットの交換を実費で行います。

- 修理品送付先

〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地 ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器
「USB-MPG」　修理係　宛

※修理品を送付される場合は、輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材を使用してください。また、紛失等のトラブルを避けるため、宅配便または書留郵便小包でのご送付をお願いいたします。

- 修理品納期問い合わせについて

受付窓口　「USB-MPG」 サービス窓口
電話番号　金沢 076-260-3663
受付時間　9:30～12:00 13:00～17:00 月～金曜日（祝祭日を除く）

※申し込まれた修理品の納期をお知りになりたい場合は、こちらまでお問い合わせください。